

芸術系教科・科目の資質・能力 の育成等について

芸術系教科・科目の資質・能力の育成等について

論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

論点 2 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方について

論点 3 資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討について

- ・構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化について
- ・教科書の在り方の更なる検討について

論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

1 効果的かつ過度な負担が生じにくい芸術系教科・科目の評価への見直しについて

(1) 今次改訂における検討の経緯

<論点整理における基本的な方向性>

- 論点整理において、学習評価のほとんどが評定に向けて行われる傾向があり、学習や指導の改善に結び付きにくい実態や、毎学期評定を定めることの負担の大きさなどを指摘し、**負担が重い「記録に残す評価」の精選や評定の頻度を見直しつつ、「学習改善等に生かす評価」を充実させる方策の必要性**が示された
- このことにより、ある単元・学期でうまく学べなかった子供でも、その後の学習により挽回の機会を提供できることや、「裁量的な時間」の活用による一人一人に応じた学習活動の拡充とも親和的であり、多様性を包摂する教育課程の在り方に繋がることへの期待が示された
※「学びに向かう力、人間性等」も含め、学習の途中に「学習改善等に生かす評価」を行っていくことは極めて重要であり、学期中に評価活動を行わず学年末に評定の整理のみ行うなど、学習評価を単に負しくする方向で誤解され運用されることのないよう留意が必要

<形成的評価について>

- 上記の改善の基本的な方向性を踏まえ、総則・評価特別部会（令和8年3月30日開催）において、学びの深まりを支える取り組みの充実として、育成したい資質・能力との関連が明確となった学習過程のデザインを基礎として、多様な子供達が資質・能力を確かに育ていけるようにするためには、**学習の途中で適切なアセスメントとフィードバックを行い、指導の調整と学習の調整を促す「形成的評価」の充実が不可欠**であると考えられる、ことが示された
- 「形成的評価」に関連して論点整理では、学校の評価活動の中で「総括的評価」がほとんどを占め、加えて評定を学期毎に示す学校が多いという実態の中、「形成的評価」の充実させる余地が少ないことから、**「評定への総括は学年末のみに行うことが可能であることを明確に示しつつ、その場合は学期中は形成的評価を中心に行うことを促すなど、評価の役割分担を明確にすべき」**旨を示している
- なお、総則・評価特別部会（令和8年3月30日開催）において、**「形成的評価」の充実は、これまでと質的に異なる新たな取組を求めるものではなく、子供一人一人の「目標と現在地の差分」を見取り、必要な学習の調整を促したり指導・助言を与えるという教師の専門性の「中核」とも言えるものとして言及されている**

論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

1 効果的かつ過度な負担が生じにくい芸術系教科・科目の評価への見直しについて（つづき）

(2)「思考・判断・表現」及び「知識・技能」の学習評価のプロセスの整理について

<現状や課題>

- 短時間の題材や単元を行う場合、3つの柱全てについて評価をしようとする、形成的評価をする余裕がなく総括的評価のみを行うといった実態が見受けられる
- 現行の資質・能力の整理では、表現領域の『思考力、判断力、表現力等』は、思いや意図をもつことや、発想や構想をすることを「思考・判断・表現」において評価し、音や音楽で表現すること（音楽）や工夫して表すこと（図画工作、美術、工芸）、身体を用いて表現すること（書道）を「知識・技能」において評価することとしている
- 思いや意図をもつことと、それを音楽表現することの評価が子供の学習の流れと必ずしも合っていないという課題や、制作の過程での評価が難しく完成作品のみから技能や思考・判断・表現の評価を行う現状などが見受けられる

<改善の方向性（案）>

- 芸術系教科・科目における学習評価のプロセスについては、例えば、以下のように整理することとしてはどうか
 - 題材や単元ごとに全ての観点で記録に残す総括的評価を行うという前提に立つのではなく、学校等の実態に応じて年間指導計画を踏まえた上で、複数の題材や単元、区分でまとめて総括的評価を行うことも可能であることを促してはどうか（短時間の題材や単元を扱う場合や、年間の複数の題材や単元を通して繰り返し指導を行う知識や技能など）
また、児童生徒一人一人が着実に資質・能力を身に付けることができるよう、学習の調整等を促す形成的評価を中心に行うこととしてはどうか
 - 「思考・判断・表現」の総括的評価を行う場合においては、思いや意図をもったり、発想や構想をし工夫したりし、歌唱、演奏、作品等に表す一連の過程の中で児童生徒の姿を捉えることを重視してはどうか（その際、学習評価のために、教師や児童生徒に過度な負担がかからないよう留意）

論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

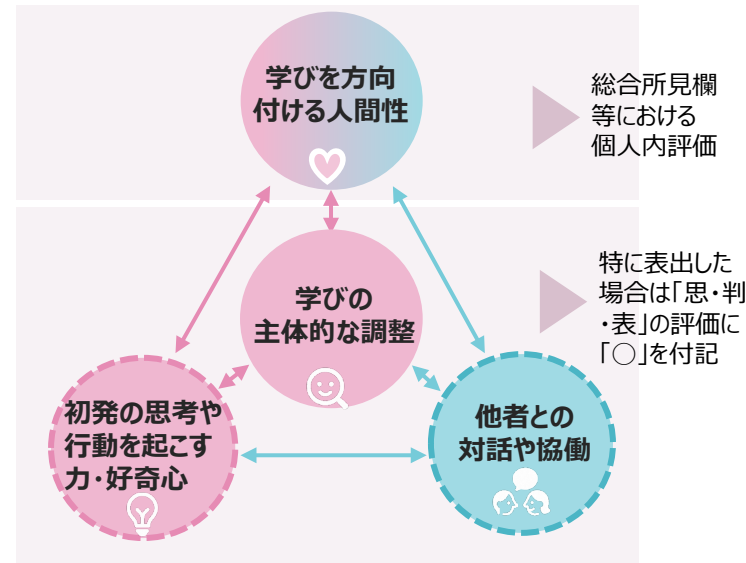
2 「学びに向かう力、人間性等」の評価の在り方

<論点整理における基本的な方向性>

- 論点整理において、「学びに向かう力、人間性等」の評価の実質化について、「学びに向かう力、人間性等」が目指す資質・能力の育成に資する学習評価となるよう、教育課程全体を通じた個人内評価と、思考力、判断力、表現力等の目標準拠評価における「○」の付記を組み合わせた新たな評価のあり方が提案された
- その際、思考力、判断力、表現力等の目標準拠評価における「○」の付記については、「学びに向かう力、人間性等」の4要素のうち、「初発の思考や行動」「学びの主体的な調整」「対話と協働」（以下「学びに向かう力の3要素」という。）が、「思・判・表」の過程で特に表出した場合に「○」を付することと整理された

<「学びに向かう力、人間性等」と「見取る姿（仮称）」の示し方のイメージ>

- 論点整理の改善の方向性を踏まえ、総則・評価特別部会（令和8年3月30日開催）においては、「○」をつける着眼点を明確化するため、「学びに向かう力の3要素」を思考・判断・表現の過程で教師が見取るための「具体的な児童生徒の姿」（以下、「見取る姿」（仮称））を各教科等ごとに示すことが提案された
- その際、「見取る姿（仮称）」は、各教科等の目標から、「学びに向かう力の3要素」を抽出したものとなることが考えられ、学習指導要領の改訂後速やかに検討して示すことが方向性として示された
- また、「見取る姿（仮称）」に関しては、各学校がそのまま活用可能なものとすることが前提とされている。
※ただし、全体として過度な負担が出ない基本設計としつつ、国が示す「見取る姿（仮称）」を参考に、各学校が学校教育目標や独自の教育課程に照らして文言等を工夫したり、児童生徒が理解しやすい観点となるよう改善を図ることが可能
- 以上を踏まえ、芸術系教科・科目の「学びに向かう力、人間性等」の評価に当たっての「見取る姿（仮称）」を検討する際に、次のような事項を参考として示してはどうか。（なお、「見取る姿（仮称）」に示す行動は、「思・判・表」の学習過程全体を通じて「継続的な発揮」として見取ることができたことをもって、「思・判・表」に「○」を付記することで一体的に評価することとなる）



論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

2 「学びに向かう力、人間性等」の評価の在り方（つづき）

音楽

※「学びに向かう力、人間性等」の「○」の付記に当たっての着眼点となる、思考・判断・表現の過程で見取る具体的な児童生徒の姿

「学びに向かう力、人間性等」の目標

小学校

楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

中学校

楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

高等学校
(音楽Ⅰ)

主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

見取る姿（仮称）※ のイメージ

- 音や音楽に進んで関わろうとしながら、自分にとっての音楽を学ぶ意義を見いだそうとしている
- 他者と関わる中で感じ方や考え方を広げ深めながら、学び方を工夫し、思考を巡らせて音楽表現を深めたり音楽を聴き深めたりしようとしている

- 音や音楽、音楽文化に進んで関わろうとしながら、自分にとっての音楽を学ぶ意義を見いだそうとしている
- 他者と関わる中で感じ方や考え方を広げ深めながら、学び方を工夫し、思考を巡らせて音楽表現を深めたり音楽を聴き深めたりしようとしている

- 音や音楽、音楽文化に進んで関わろうとしながら、自分にとっての音楽の価値や音楽を学ぶ意義を見いだそうとしている
- 他者と関わる中で感じ方や考え方を深め視野を広げながら、課題への取り組み方を工夫し、思考を巡らせ音楽表現を深めたり音楽を聴き深めたりしようとしている

オレンジハイライト：「見取る姿（仮称）」に抽出される「学びに向かう力の3要素」に対応する部分

下線：第7回WGを踏まえた修正、新たな提示事項

論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

2 「学びに向かう力、人間性等」の評価の在り方（つづき）

図画工作、美術、工芸

「学びに向かう力、人間性等」の目標

小学校

つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に**造形的な創造活動**に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う

中学校

創造することの喜びを味わいながら、主体的・協働的に**美術の創造活動**に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、**美術や美術文化に関わり**親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく**態度**を養い、豊かな情操を培う

高等学校
(美術 I)

主体的・協働的に**美術の幅広い創造活動**に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、**美術や美術文化に関わり**親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく**態度**を養い、豊かな情操を培う

高等学校
(工芸 I)

主体的・協働的に**工芸の幅広い創造活動**に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、**工芸や工芸の伝統と文化に関わり**親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく**態度**を養い、豊かな情操を培う

※「学びに向かう力、人間性等」の「○」の付記に当たっての着眼点となる、思考・判断・表現の過程で見取る具体的な児童生徒の姿

見取る姿（仮称）※ のイメージ

- ・ 形や色、材料などに進んで関わり、自分の感じ方や考え方を確かめながら、自分なりの意味や価値をつくりだそうとしている
- ・ 他者の感じ方や考え方、活動の様子や作品などに関わり、振り返りながら、自分の表現、見方や感じ方を広げ深めようとしている

- ・ 美術や美術文化に進んで関わり、自分の感じ方や考え方を問い直ししながら、自分としての意味や価値をつくりだそうとしている
- ・ 他者と感じ方や考え方を交流し、様々な視点や考え方に触れ、振り返りながら、自分の表現、見方や感じ方を広げ深めようとしている

- ・ 美術や美術文化に進んで関わり、美の本質に迫り、自分の感じ方や考え方を問い直しながら、自分としての意味や価値をつくりだそうとしている
- ・ 他者と感じ方や考え方を交流し、視点や考え方を広げ、振り返りながら、よりよい表現を求め、見方や感じ方を深めようとしている

- ・ 工芸や工芸の伝統と文化に進んで関わり、素材の本質に迫り、自分の感じ方や考え方を問い直しながら、自分としての意味や価値をつくりだそうとしている
- ・ 他者と感じ方や考え方を交流し、視点や考え方を広げ、振り返りながら、よりよい表現を求め、見方や感じ方を深めようとしている

オレンジハイライト：「見取る姿（仮称）」に抽出される「学びに向かう力の3要素」に対応する部分
下線：第7回WGを踏まえた修正、新たな提示事項

論点 1 芸術系教科・科目における学習評価の在り方について

2 「学びに向かう力、人間性等」の評価の在り方（つづき）

書道

※「学びに向かう力、人間性等」の「○」の付記に当たっての着眼点となる、思考・判断・表現の過程で見取る具体的な児童生徒の姿

「学びに向かう力、人間性等」の目標

高等学校
(書道 I)

主体的・協働的に書道の幅広い創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見取る姿（仮称）※ のイメージ

- 書の伝統と文化に進んで関わろうとしながら、自分にとっての文字や書の意味や価値、それらを学ぶ意義を見いだそうとしている
- 他者と交流し、自分の感じ方や捉え方、考え方を広げ深めながら、書の美を追求し深めようとしている

オレンジハイライト：「見取る姿（仮称）」に抽出される「学びに向かう力の3要素」に対応する部分
下線：第7回WGを踏まえた修正、新たな提示事項

小・中・高等学校 音楽の目標等について<改善案>

黄色ハイライト：第7回WGからの変更点

目標・柱書	
小学校音楽	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校音楽	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校音楽	音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽のよさなどを味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
中学校音楽	音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術（音楽Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術（音楽）の目標等について〈改善案〉

黄色ハイライト：第7回WGからの変更点

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅱ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅲ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 芸術や芸術文化に関わり親しみ 、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に 関わり親しみ 、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅱ	創意工夫を生かして音楽を創造的に表現したり、曲や演奏の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化と 関わり親しみ 、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅲ	音楽を創意工夫や表現上の効果を生かして創造的に表現したり、芸術としての音楽の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を解釈したり評価したりしながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化に 関わりそれらを尊重し 、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高等芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

小・中・高等学校 図画工作・美術・工芸の目標等について <改善案>

黄色ハイライト：第7回WGからの変更点

目標・柱書	
小学校図画工作	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校美術	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、 表現方法に応じて 材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に 造形的な 創造活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う
中学校	対象や事象を捉える造形的な視点、 美術の働きや美術文化について 理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って 創造的に 表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	創造すること の喜びを味わいながら、主体的・協働的に 美術の創造活動 に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、 美術や美術文化に関わり親しみ 、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
高校	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して 創造的に 表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり 芸術を愛好する 心情を育むとともに、感性を高め、 芸術や芸術文化に関わり親しみ 、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、 美術の働きや美術文化について 幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って 創造的に 表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に 美術の幅広い創造活動 に取り組み、生涯にわたり 美術を愛好する 心情を育むとともに、感性を高め、 美術や美術文化に関わり親しみ 、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、 工芸の働きや工芸の伝統と文化について 幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って 創造的に 表現したり、価値意識をもって 工芸作品 などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に 工芸の幅広い創造活動 に取り組み、生涯にわたり 工芸を愛好する 心情を育むとともに、感性を高め、 工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ 、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

小学校図画工作 中学校美術 高校芸術（美術Ⅰ・工芸Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術（美術）の目標等について〈改善案〉

黄色ハイライト：第7回WGからの変更点

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅱ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅲ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 芸術や芸術文化に関わり親しみ 、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、 美術の働きや美術文化 について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って 創造的に 表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 美術や美術文化に関わり親しみ 、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、 美術の働きや美術文化 について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と 創意工夫 などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って 創造的に 表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、 美術や美術文化に関わり親しみ 、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、 美術の働きや美術文化 について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と 創意工夫 などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って 創造的に 表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、 美術や美術文化に関わりそれらを 尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
美術Ⅰ、美術Ⅱ、美術Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校芸術（工芸）の目標等について〈改善案〉

黄色ハイライト：第7回WGからの変更点

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅱ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅲ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 芸術や芸術文化に関わり親しみ 、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、 工芸の働きや工芸の伝統と文化 について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と 創意工夫 などについて考え、心豊かに発想し構想を練って 創造的に 表現したり価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ 、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、 工芸の働きや工芸の伝統と文化 について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と 創意工夫 などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って 創造的に 表現したり、自己の価値観を高めて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、 工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ 、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、 工芸の働きや工芸の伝統と文化 について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と 創意工夫 などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って 創造的に 表現したり、自己の価値観を働かせて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、 工芸や工芸の伝統と文化に関わりそれらを尊重し 、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
工芸Ⅰ、工芸Ⅱ、工芸Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校芸術（書道）の目標等について〈改善案〉

黄色ハイライト：第7回WGからの変更点

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
書道Ⅰ	書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅱ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅲ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 芸術や芸術文化に関わり親しみ 、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅰ	書の特徴、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 書の伝統と文化に関わり親しみ 、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅱ	書の特徴、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 書の伝統と文化に関わりそれを尊重し 、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅲ	書の特徴、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、 書の伝統と文化に関わりそれを尊重し 、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること



1. 個人内評価への変更

- 前回改訂時、「学びに向かう力、人間性等」のうち感性や思いやり等については目標に準拠した評価や評定になじまないとして「個人内評価」で扱うこととし、それらを除いた「主態」を目標準拠評価の対象としたが、理解が難しく目指す資質・能力を適切に反映した評価となりにくい、負担が重い等の指摘もある (72ページの2. 参照)
- 一方、「学びに向かう力、人間性等」をカリキュラム全体で育てていくことや、そのために主体的な学習の調整を促す課題を意図的に活動に位置付けていくことの重要性は一層高まっている
- 観点別評価の評価観点として存置しつつも、各教科毎に「目標準拠評価」として行うのではなく、教育課程全体を通じた「個人内評価」として行う方法に改めることにより、過度な評価材料集めを抑制しつつ、多様な子供たち一人一人の良さや成長を自然な形でみとり、肯定的に評価できるようにすべき
- ①を前提とすると、「感性・思いやり」と「主体的に学習に取り組む態度」に分ける必要がなくなるため、評価観点としては単に「学びに向かう力・人間性」とすることが考えられる

2. 思考・判断・表現の評価への付記

- 1. のように「学びに向かう力、人間性等」を教育課程全体を通じた個人内評価として行うことを想定した場合でも、その一部分は各教科等における「知・技」や「思・判・表」の評価の過程で特に見取れる場合もあると考えられる
- 特に、「思考力・判断力・表現力等」は「知識や技能を活用して課題を解決するために必要な力」であり、問題発見・解決や、考えの形成・表現、思いや考えを基にした意味や価値の創造といった過程で発揮されるものであり、本部会で議論してきた「学びに向かう力、人間性等」の4つの要素(※)と親和性が特に強い

(※)初発の思考や行動を起こす力・好奇心、学びの主体的な調整、他者との対話や協働、学びを方向付ける人間性

- 教育課程全体を通じた個人内評価を基本としつつも、思考・判断・表現の過程で、「学びに向かう力、人間性等」の各要素のうち、具体的に見取ることができる要素(※)が特に表出した場合には、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記する方向で検討すべき

(※)初発の思考や行動・好奇心、対話や協働、学びの主体的な調整のプロセスを一体的に見取る。初発の考えを作るといった入り口部分だけでなく、その後の学習の調整等を通じた考えの修正等も含めて見取ることの重要性に留意

- ①のように考える場合、「思・判・表」の評価で、ペーパーテストに偏重した現在の評価が改善され、論述・レポート・作品製作等の「学びの主体的な調整」が求められる評価課題の重視や、それらを核とした授業改善に繋がることが期待される

- ※ 1. 2. の方向性は、不登校児童生徒に対して特に「主態」の評価を付けづらく、評定もつけられないという実態の改善に寄与することも期待される

- これらの方向性は、学習の自己調整を含めた「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が一層重要となることを踏まえ、その効果的な育成を図るために、「学びに向かう力、人間性等」の特質に応じた評価の在り方に改善を図るもの。「学びに向かう力、人間性等」の評価を「しなくてもよくなる」「軽視してよい」といった誤った理解とならないよう、具体的な運用の設計と趣旨の周知・徹底を図るべき
- 「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記した際、それを教育課程の実現状況の総括的な評価である評定に一定程度加味することの適否については、引き続き総則・評価特別部会で検討を深めるべき



具体的な方向性と論点②（中核的概念、評価の頻度）

令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理 P.75

3. 中核的な概念等との関係

- 中核的な概念等については、複数の内容事項に共通する主要な理解等を示すこと、従来と比較して包括的・一般的な表現とすることが想定される
- こうした中核的な概念等の中には、単に知識として指導するだけでは理解が難しく、具体的な内容事項を通じて指導を積み重ねる中で理解に至ることが期待されるものがあると考えられる
- 一方、明示的に中核的な概念等を指導することが有効な場合もあり、概念等と内容事項の間を行きつ戻りつしながら深い理解が得られると考えることもできる
- 仮に中核的な概念等の理解について評価規準を設定する場合、焦点が不明瞭になるとの懸念がある一方、評価課題の工夫次第で理解を問うことも可能な場合もあると考えられる

いずれにせよ、各教科等における中核的な概念等の具体的な粒度や示し方について今後検討していく中で、学習評価における取扱いについても具体的な整理を行っていくことが必要であり、今後、総則・評価特別部会において並行して議論すべき

4. 評価の頻度やタイミング

- 学習評価を真に子供の学習等の改善に繋げていくためには、「学習改善等に生かす評価」（適時のタイミングでのアセスメントとフィードバック）の充実が必要である
- 一方、評価活動の中で「記録に残す評価」がほとんどを占め、加えて評定を学期ごとに示す学校が多いという実態の中、「学習改善等に生かす評価」を充実させることは負担が大きい

<基本的な方向性>

- ① 評定への総括は課程の修了認定を行う学年末にのみ行うことが可能であることを明確に示しつつ、その場合には学期中は「学習改善等に生かす評価」を中心に行うことを促すなど、評価の役割分担を明確化し、その趣旨・方法等について教師や保護者に向けて分かりやすく周知すべき
- ② ①の方策は、ある単元・学期でうまく学べなかった子供でも、その後の学習により挽回の機会を提供できることや、「裁量的な時間」の活用による一人一人に応じた学習活動の拡充とも親和的であり、多様性を包摂する教育課程の在り方に繋がることが期待される

※「学びに向かう力、人間性等」も含め、学習の途中に「学習改善等に生かす評価」を行っていくことは極めて重要であり、学期中に評価活動を行わず学年末に評定の整理のみ行うなど、学習評価を単に貧しくする方向で誤解され運用されることのないよう留意が必要

<想定される課題への対応>

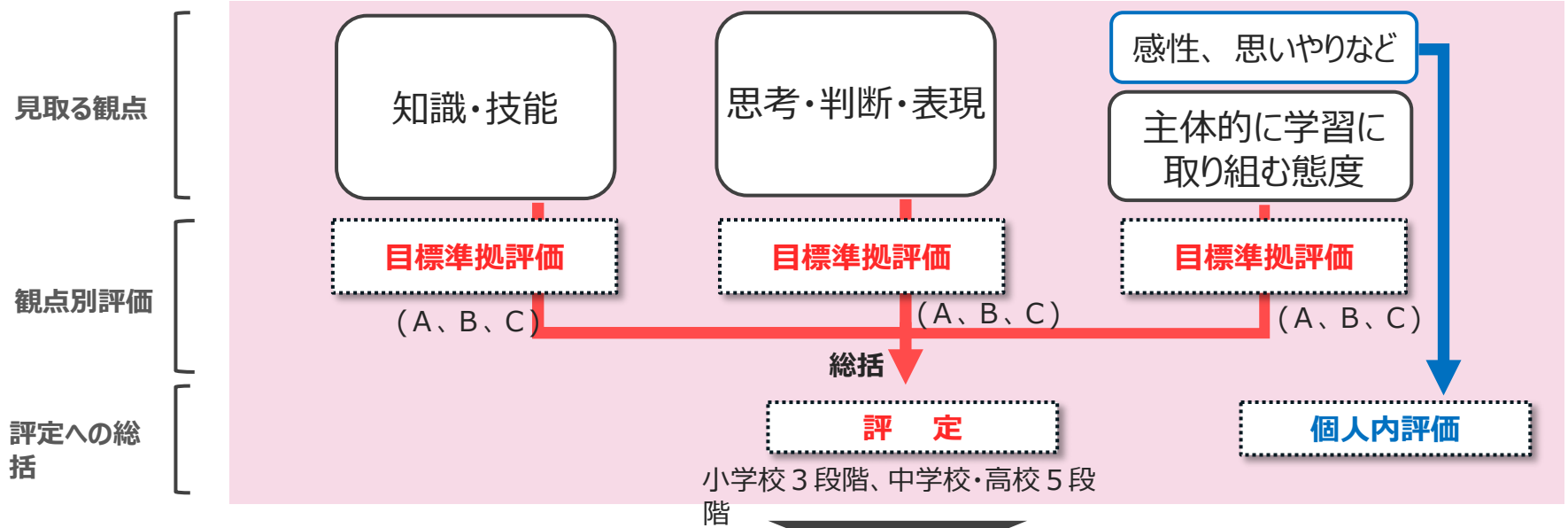
例えば以下のような課題も考えられ、デジタル学習基盤の活用も含めた具体的な運用例を示すなど、具体的な在り方について引き続き検討が必要である

- 学期途中に評定がないと学習の進捗が分かりにくい
- 各学期の「学習改善等に生かす評価」のフィードバックの方法がイメージしにくい
- 高校入試との関係上、中学校3年生は2学期までの評定が必要
- 各単元の「記録に残す評価」の精選の具体的なイメージが湧きにくい
- 特定の時点でうまく学べなかった子供がその後の学習で顕著に資質・能力を発揮した場合の評価上の対応について、過度な負担なく行う方法がイメージしにくい

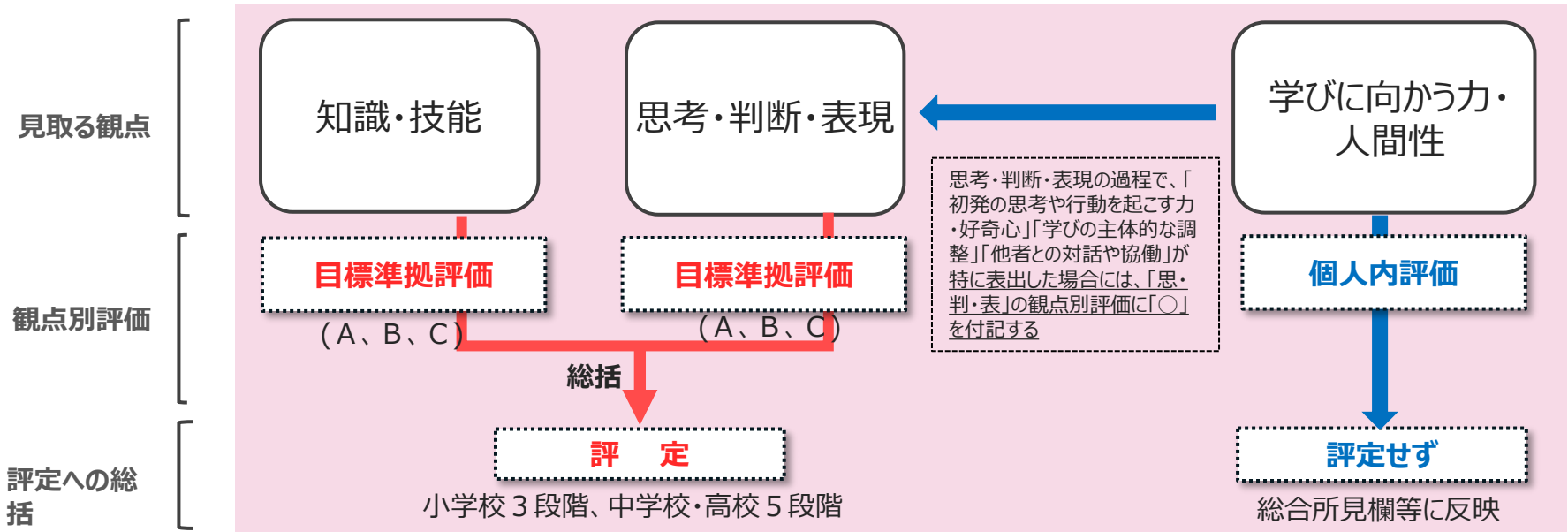
新たな観点別評価の方向性イメージ

令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理 P.77

旧



新



〔「論点整理」の基本的方向性を踏まえた見直しの必要性〕

- 論点整理では、多様な子供達の「深い学び」を確かなものにするため、①主体的・対話的で深い学びの実装 ②多様性の包摂 ③実現可能性の確保という3つの方向性を示している。学習評価の改善に関しても、この3つの方向性を踏まえ、**多様な子供達の学びの深まりに直結する要素は丁寧に改善・充実を図りつつ、必ずしもそうでないものはスリム化を徹底していく必要**。

〔検討項目①「学びに向かう力・人間性等」の評価の実質化）

- こうした視点から、企画特別部会ではまず学びに向かう力・人間性等（以下「学びに向かう力」という。）の評価の改善が議論された。「目標に準拠した評価」に伴う評価材料の形式化や、「勤勉さ」「自主性」の評価にとどまりがちな評価の実態を改め、「学びに向かう力」が目指す資質・能力の育成に資する学習評価となるよう、教育課程全体を通じた個人内評価と、思考力・判断力・表現力等（以下「思・判・表」という。）の目標準拠評価における「○」の付記を組み合わせた新たな評価のあり方が提案された。
- この改善の方向性は、
 - 形式的な評価材料集めを抑制しつつ、多様な子供達一人一人の良さや成長を自然な形で肯定的に評価し、「学びに向かう力」の特質に合わせた評価の「実質化」を図る
 - 「学びに向かう力」の諸要素を「思・判・表」の過程で一体的に見取することで、ペーパーテスト偏重の「思・判・表」評価から脱却し、実生活・社会と結びついた、問いから論述・レポート・作品制作等に至るまでの間に学びの主体的な調整が必要となる学習課題を核とした指導・評価の改善を促すものであり、「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力等」の両観点の指導・評価を一体的に改善することを目指すものである。

- また、今回の改訂では、知識及び技能（以下「知・技」という。）と「思・判・表」を一体的に育成する重要性を強調し、それらの対応関係を分かりやすく示すため表形式で構造化することとしている。これには、「思・判・表」を伴う学習活動を通じて個々の知識等が相互に関連付けられ、統合的に理解されるようにする狙いがあるが、その実現のためには主体性を伴った質の高い「思・判・表」の過程が不可欠である。このように考えると、今回の「学びに向かう力」との一体性を強めた「思・判・表」の指導と評価の改善は、構造化の趣旨を支えるものであるとも言える。

- こうした理解の下で、「**思・判・表**」の観点別評価に「○」をつける**実際の方法や、「○」がついた際の評定への影響の有無など、運用のあり方を具体化していく必要がある**。（⇒検討項目①）

〔検討項目②「高次の資質・能力」の評価上の取扱いの明確化）

- 論点整理では、「高次の資質・能力」の学習評価上の扱いについて、評価課題の工夫次第で理解を問うことが可能な場合もある一方、包括的・一般的な内容が予想される「高次の資質・能力」に評価規準を設定すると焦点が不明確となる懸念もあるという2つの相反する見方を示した上で、「高次の資質・能力」の具体的な粒度や示し方が十分に整理されていない段階で評価上の取扱いを結論づけることは難しいため、引き続き検討とした。
- その後、各教科等WGでの議論を経て、「高次の資質・能力」の具体的な姿について一定の整理が進められてきたところであり、それらに**即しつつ、「高次の資質・能力」を学習評価上どう扱うべきか具体化する必要がある**。（⇒検討項目②）

〔検討項目③ 評価の頻度等を含めた、シンプルで資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの整理）

- 論点整理は、学習評価のほとんどが評定に向けて行われる傾向があり、学習や指導の改善に結び付きにくい実態や、毎学期評定を定めることの負担の大きさなどを指摘し、負担が重い「記録に残す評価」の精選や評定の頻度を見直しつつ、「学習改善等に生かす評価」を充実させる方策の必要性を示した。
- こうした方向性を踏まえ、現在文部科学省や国立教育政策研究所が示している「記録に残す評価」のあり方を見直し、「**学習改善等に活かす評価**」の**充実に繋がる、シンプルで分かりやすいプロセスを整理する必要**がある。（その際、生成AIを含むICTをどのように活用しうるかを併せて検討することが重要）（⇒検討項目③）

「学びに向かう力・人間性等」の特質に応じた新たな観点別評価

【論点整理で示した改善の狙い】

論点整理では、以下のような改善を意図した「学びに向かう力・人間性等」（以下「学びに向かう力」）の評価の改善が提言された。

- ◆ 形式的かつ過度な評価材料集めを抑制しつつ、多様な子供達一人一人の良さを成長を肯定的に評価できるよう、実質化を図る
- ◆ 「思考・判断・表現」の過程で一体的に見取ることとし、学びの主体的な調整が必要となる学習課題を核とした指導・評価の改善を促す

具体的には、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」（以下「思・判・表」）は従前同様に目標に準拠した観点別評価・評価を行うこととしつつ、「学びに向かう力」については「総合所見欄」における教育課程全体を通じた個人内評価と、各教科等における「思考・判断・表現」の観点別評価への「○」の付記を組み合わせた評価方法を導入することとし、「学びに向かう力」という資質・能力の特質に合わせた評価方法への改善を目指すこととした。

【更なる検討課題と方向性】

①「学びに向かう力」の評価における「○」の付記の具体的な運用方法

（方向性）各教科等ごとに示す「見取る姿（仮称）」（※1）をできるだけ長い期間を通じ、全体として「継続的な発揮」を見取る

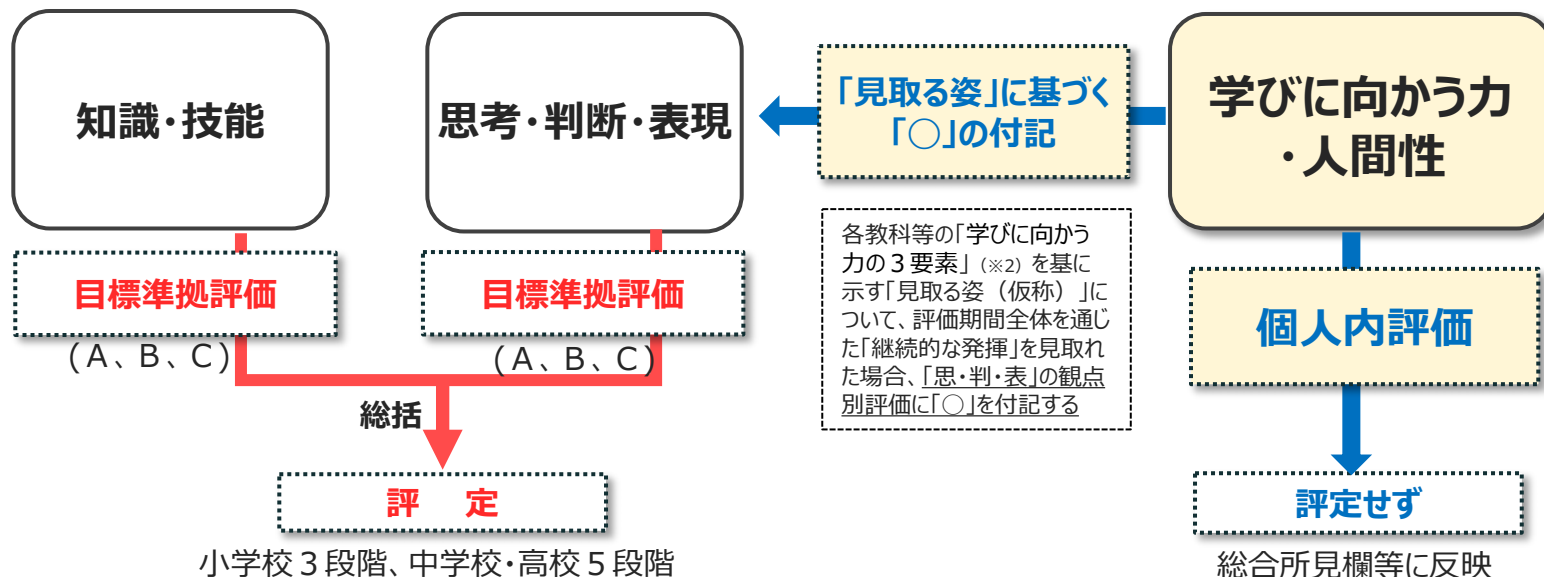
「学びに向かう力」が「思・判・表」と一体的に表出し、学習評価では不可分。「○」は「思・判・表」の観点別評価を介し、一体的な勘案の結果として評価にも影響

②「高次の資質・能力」の関係性の整理

（方向性）「高次の資質・能力」は直接の評価対象とはせず、教師が単元を構想し、「深い学び」の実現に資する学習過程や評価課題のデザインに活用するなど、指導や評価の改善に活用

③シンプルで資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの整理

（方向性）新たな学習評価の仕組みを学習・授業の改善に結びつけていくことができるよう、学習評価の手順をシンプルに再整理し、「文書作成」のプロセスとしてではなく、指導と評価の「構想」のプロセスとして示す



小学校3段階、中学校・高校5段階

総合所見欄等に反映

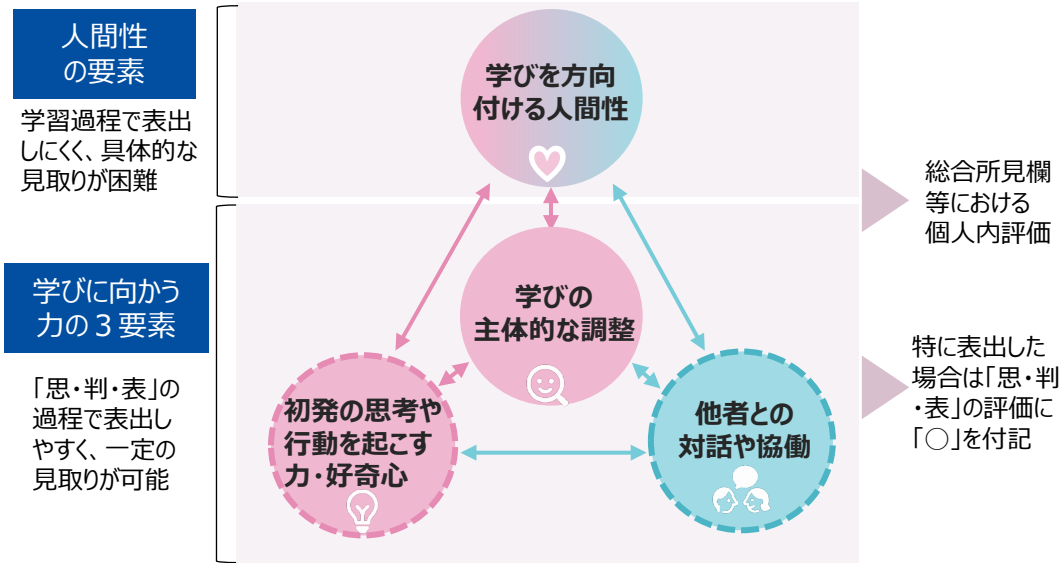
(※1) 国において示し、各学校がそのまま活用可能なものとする前提で検討

(※2) 「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」

1 「学びに向かう力」の評価における「○」のあり方①

1. 「○」の付記に当たっての基本的な考え方について

- 論点整理では、「学びに向かう力」の4要素のうち、「初発の思考や行動」「学びの主体的な調整」「対話と協働」（以下「学びに向かう力の3要素」という。）が、「思・判・表」の過程で特に表出した場合に「○」を付することと整理しており、具体的にどのような場合に付記するのが課題となる。



人間性の要素

学習過程で表出しにくく、具体的な見取りが困難

学びに向かう力の3要素

「思・判・表」の過程で表出しやすく、一定の見取りが可能

総合所見欄等における個人内評価

特に表出した場合は「思・判・表」の評価に「○」を付記

- 仮にその他の観点別評価と同様に、評価規準を設定し、達成したと認められる場合に「○」をつけることとした場合、評価の付け方が「ABC」から「○あり、○なし」になるだけで「形式的かつ過度な評価材料集め」はなくなることが想定され、「勤勉さ」や「自主性」の評価に留まりがちな評価から脱却し、「学びに向かう力」の育成に資する学習評価を実現するという今般の改善の趣旨が没却される恐れがある。
- 一方で、「○」をつけるための評価の着眼点をまったく示さなければ、妥当性・信頼性が確保できないばかりか、学習や指導の改善に活かされず、「学びに向かう力」の育成に繋がらない恐れがある。
- このため、客観性・定量性の要請による形式化の弊害が生じにくい配慮を行いつつ、「○」をつける着眼点を一定程度明確にすることにより、過度な負担を生じさせず「学びに向かう力」の育成に実質的に繋がる適切な設計を行う必要がある

2. 「○」の付記に際して「見取る姿」（仮称）の明確化

- 左記1. の基本的な考え方を踏まえ、「学びに向かう力」の3要素を思考・判断・表現の過程で教師が見取るための「具体的な児童生徒の姿」（以下、「見取る姿」（仮称））を各教科等ごとに示す必要があるのではないか。
- その際、発達の段階に即して具体的にイメージできるものとする観点から、各教科等について、一定の年度のまとめ毎に示すことが考えられるが、各学年ごとである必要はない場合も考えられ、具体は引き続き検討が必要ではないか。（なお、過度な評価材料の収集につながらないように、単元のまとめごとの「見取る姿（仮称）」を示すことはせず、単元ごとに「○」をつける運用も求めないこととはどうか）。
- こうした「見取る姿（仮称）」は、各教科等の目標から、「学びに向かう力の3要素」を抽出したものであることが考えられ、学習指導要領の改訂後速やかに検討して示していくこととはどうか。（※）

【「見取る姿（仮称）」の示し方のイメージ（中学校数学）】

- ◇ 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとしている
- ◇ 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- ◇ 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

- また、学習指導要領に示す目標の実現を図るとともに、各学校に過度な負担を生じさせない観点からは、国が示した「見取る姿（仮称）」を基に各学校に独自の着眼点を設定するよう一律に求めることは適当でなく、各学校でそのまま活用可能なものとする前提で検討してはどうか。
- このようにして、全体として過度な負担が出ない基本設計としつつ、国が示す「見取る姿（仮称）」を参考に、各学校が学校教育目標や独自の教育課程に照らして文言等を工夫したり、児童生徒が理解しやすい観点となるよう改善を図ることが可能であることについては、確認的に明確化しておくべきではないか。

（※）特に「初発の思考・行動」については、単に与えられた課題に積極的に取り組むかといった学習の入り口段階における自主性にとどまることのないよう検討する必要があることに留意

1 「学びに向かう力」の評価における「○」のあり方②

3. 設定した観点をういた「○」の付記の方法

- 「知・技」や「思・判・表」は、育成・評価したい資質・能力と観察可能な成果（評価材料）の「ずれ」が比較的生じにくい一方、「学びに向かう力」は直接観察が難しい情意面の表出を見取るものであり、こうした「ずれ」が生じやすい（実際、従来の「主体的に学習に取り組む態度」の目標準拠評価では、評価材料の収集努力が形式的かつ過度なものになりやすく、目指す資質・能力の育成・評価に結びつきにくい側面がある）。

※例えば、「知・技」であれば分数の理解を評価するために「分数の理解を問う課題」を出すことができるが、「学びに向かう力」であれば、「自己調整」や「粘り強さ」といった側面を直接観察・評価することは難しいため、「振り返り」等の間接的な評価材料を通じた推定が必要となる。

- こうした「学びに向かう力」の特質を踏まえ、論点整理では、別途独立した評価材料を集めるのではなく「学びに向かう力の3要素」が表出しやすくと考えられる「思・判・表」の過程で見取り、「思・判・表」に「○」を付記することで一体的に評価するという評価方法が提案された。

- こうしたことを踏まえ、「○」の付記の運用についても、「資質・能力」と「評価材料」の「ずれ」を可能な限り避け、「形式的かつ過度な評価材料集め」等を招かないようにすべき。こうした視点からは、以下の2点が重要ではないか。

① 「学びに向かう力の3要素」は、ある程度幅のある学習期間の中で表出する特質がある一方、特定の学習場面や学習課題のみで見取ろうとすると上記の「ずれ」が生じやすくなるため、**できる限り長い期間をかけ、全体として見取る**

② 特定の「規準」に照らして、情意面の発達の一定の水準の達成の有無を判断しようとする、客観的な証明のため「形式的かつ過度な評価材料集め」を招きやすくなるため、**「見取る姿（仮称）」に即した行動が徐々に増え、様々な学習場面で安定して表出するようになった、「継続的な発揮」を見取る**

- 以上を踏まえ、**当該評価期間における「思・判・表」の学習過程全体を通じて、「見取る姿（仮称）」に示す行動の「継続的な発揮」を見取ることができたことをもって、「○」をつけることとしてはどうか。**

※児童生徒の多様な特性を踏まえ、「見取る姿（仮称）」の表出の在り様も子供によって違いがあることに留意

	観点別評価における目標準拠評価		「学びに向かう力」の「○」の付記
評価場面	特定の学習場面・学習課題を通じ、	⇒	評価期間における「思・判・表」の学習過程全体を通じ、
判断方法	「規準」に照らして特定の水準の達成の有無を判断する	⇒	「見取る姿（仮称）」に示す行動の「継続的な発揮」を見取る

- 「○」を付したということは、評価期間内に当該教科等で「学びに向かう力の3要素」が繰り返し表出したことを意味する。このため、「○」を付した教科等については、その後の学習でも主体的な学びに基づく資質・能力の伸びを期待しようという積極的な意義付けが可能ではないか。

※ なお、一人ひとりの成長や良さを肯定的に評価するという今般の趣旨や、「好き」を伸ばし「得意」を育むという今次改訂の方針を踏まえれば、児童生徒が全て又は大多数の教科等で「○」を獲得することが目的化するの、運用上想定しておらず改善の趣旨を没却するものであり、注意深く避ける必要がある。

- また、この「○」は「規準」の達成の有無を示すものではなく、「見取る姿（仮称）」に即した行動の「継続的な発揮」を見取るものであるため、いわゆる「総括的な評価」としての性質はこれまでと比較して弱く、当該教科における更なる成長を促す「形成的な評価」としての性質を併せて有するものと考えられるのではないか。

- このような「見取る姿（仮称）」を踏まえた子供の見取りと「○」の付記の運用は、形式的かつ過度な評価材料集めから脱却し、教師が児童生徒の「学びに向かう力」を学習過程を通じて適切に見取る力を身に付ける上で重要な仕組みではないか。

4. 「○」の評定への影響について

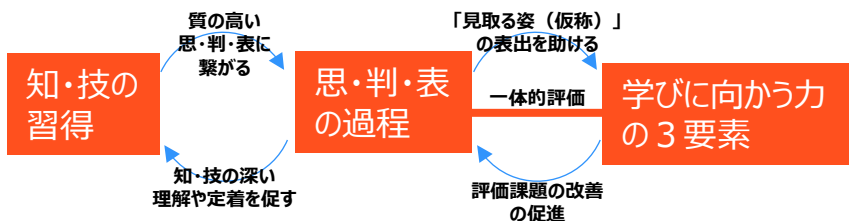
- 「○」の付記について、各教科の目標に照らした実現状況を総括的に評価する「評定」でどのような考慮をすべきかが課題となるが、この点について論点整理では、
 - 評定に影響するものと整理した場合「形式的かつ過度な評価材料集め」を生じる可能性が高くなるので、評定に影響させるべきではないとする意見と、
 - 「学びに向かう力」はこれからの社会でますます求められる資質・能力であり、「○」を評定に影響させるものとして整理し、学校現場の積極的な取組を促す動機付けとすべきとの意見
 の双方が出され、総則・評価特別部会で検討を深めるべきとされた。

- 3. までの議論では、「学びに向かう力」は単独で評価材料を収集しようとすると、育成したい資質・能力と評価材料との「ずれ」が生じやすいことから、その特質を踏まえ「学びに向かう力」が表出しやすい思考・判断・表現の過程で見取り、「思・判・表」に「○」を付記することで一体的に評価することとし、思考・判断・表現の過程における「学びに向かう力の3要素」の継続的な発揮に対して「○」を付記するという運用を示した。

- 以上を踏まえると、「○」は、独立した評価観点として評定に影響を与えるものではなく、「学びに向かう力」が「思・判・表」と一体的に表出する以上、評定を含む学習評価においては「思・判・表」と不可分なものとして捉えざるを得ない性質のものといえるのではないか。

(例えば、2. において数学の「見取る姿（仮称）」の例として示した「問題を見いだして他者と協働して問題解決し、その過程を評価・改善しようとしている」という行動が継続的に発揮されている場合には、「日常生活や社会の事象における判断や意思決定に数学を活用する力」という思・判・表がよく育成されていることと切り離して考えることは難しい

- このような性質と捉えるからこそ、教師は「見取る姿（仮称）」が表出するような思考・判断・表現の学習過程を意識的にデザインすることとなり、「思・判・表」のよりよい育成にも繋げていくことができる。そして、その思考・判断・表現の学習過程が「見取る姿（仮称）」の一層の表出を可能とするという好循環に繋がるとも考えられるのではないか。



※「思・判・表」の過程の中で、よりよい「知・技」の習得に繋がる学習活動が含まれることも考えられ、その過程で「見取る姿（仮称）」が発揮されることもあることに留意

- 学習評価でのこうした性質に鑑みれば、**付記された「○」は、「思・判・表」の育成状況の程度を評価する中で、一体的かつ必然的に勘案されるため、「思・判・表」の観点別評価を介して、評定に影響を与えるものと整理すべきではないか。**

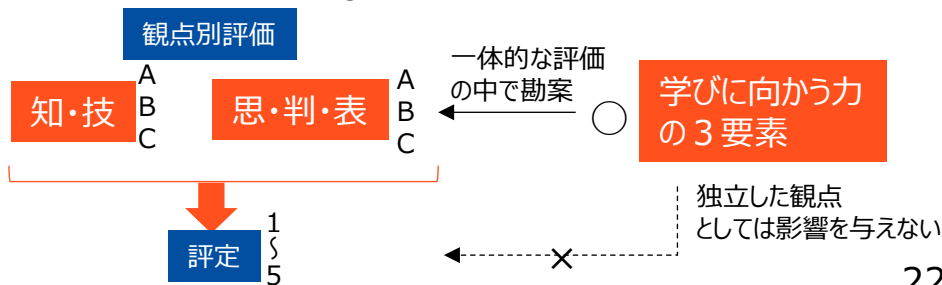
- すなわち、具体の運用としては、例えば、「知・技」、「思・判・表」がABである場合、評定（5段階）は4あるいは5となることが想定されるが、「思・判・表」が「BO」である場合には、**一体的な勘案の結果として、評定を5とする総合的な判断がなされることが有り得る。**

- 一方、一体的に勘案するとはいえ、「○」がどの程度「思・判・表」の育成と結びついているかの度合いは児童生徒によっても異なることを踏まえれば、「○」の付記は、**自動的に評定を一段階上げることが要する性質のものではなく、「BO」の場合であっても、評定を4とすることも有り得ることになる。**

- これは、「○」を勘案していないのではなく、前述のように、「○」は「思・判・表」と一体的に勘案されるものであることから、思考・判断・表現の育成状況の程度の評価との一体的な勘案の結果として、**評定を一段階上げるには至らなかったということになる。**

- なお、これにより、域内の学校で、観点別評価と○の組み合わせが同じでも必ずしも評定が同じとならないため、評定が一意に定まらないとの指摘もあり得る。しかしながらこの点は、**現行の評定の決定でも、「ABB」の評定は3～4で幅が生じることが想定されるなど現行と同様で、今後とも、評定の具体の決定方法は所管の教育委員会の方針及び指導を司る教師の専門的・総合的判断により適切に定めるべきもの。**

＜「○」の評定への影響イメージ＞

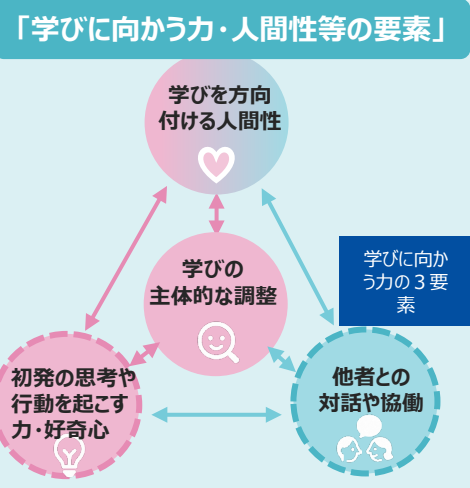


「学びに向かう力・人間性等」の「○」の付記の運用について

1 授業改善



「見取る姿(仮称)」を思考・判断・表現の過程の中で見取れるように授業改善



「学びに向かう力・人間性等」の目標

(中学校数学の例)

- ・ 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。
- ・ 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。
- ・ 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
- ・ 数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

「見取る姿(仮称)」

「学びに向かう力」の「○」の付記に当たっての着眼点となる、思考・判断・表現の過程で見取る具体的な児童生徒の姿

(中学校数学の例)

- ・ 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとしている
- ・ 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- ・ 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

2 見取る



「見取る姿(仮称)」に即した行動が徐々に増え、様々な学習場面で安定して表出するようになった、「継続的な発揮」を見取ることができるか？

単元A



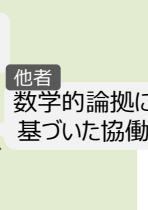
単元B



単元C



単元D



評価期間における思考・判断・表現の過程

(※1) 評価期間の初期は表出しにくても、徐々に継続して発揮するようになる子供もいることに留意

3 評価の総括

観点別評価・評定の指導要録記載イメージ

知識・技能	A	総括
思考・判断・表現	B	
学びに向かう力	○	
評定	4 or 5	

(※2,3)

一體的に勘案

独立して影響しない

一體的な勘案の結果として、評定を4とするか5とするか総合的な判断

(※2) 「学びに向かう力」については、学習評価の実施に際しては「思・判・表」の過程で見取るため要録上は「思・判・表」の欄と一體的に記載するが、育成する資質・能力の柱として「思・判・表」の一部となったわけではないことに留意

(※3) 観点別評価欄とは別に、総合所見欄において「学びに向かう力」全体の育成状況について個人内評価を記載することとなる

2 「高次の資質・能力」の学習評価における取扱い

- 企画特別部会「論点整理」では、「高次の資質・能力」の具体的な粒度や示し方が十分に整理されていない段階で評価上の取扱いを結論づけることは難しいため、引き続き検討とした。その後、総則・評価特別部会では、「高次の資質・能力」の示し方を整理し、それを踏まえて各教科等WGでの議論を経て、「高次の資質・能力」の具体的な姿について一定の整理が進められてきたところ。
- 高次の資質・能力は、複数の内容項目を包括し、それらに共通する本質を踏まえた学びの「深まり」の姿を可能な限り分かりやすくシンプルに示すことができるように検討が進められているが、教科等によって特質が異なり、具体の案にも相応の差がみられる。
- こうしたことを踏まえた場合、仮に高次の資質・能力の育成状況を、一律に、目標準拠評価の対象として直接的に評価しようとした場合には、以下のような課題も考えられるのではないかと。
 - 定量的・客観的な評価のために、具体的な学習の文脈や個別の知識・技能の統合的な理解等から切り離され抽象的な概念の暗記を問う課題等による評価が行われる恐れがあり、その場合「高次の資質・能力」を設定した趣旨と逆行してしまう
 (例えば、(問) 化学反応においては、反応の前後で原子の数はどうなるか
 (答) 変わらない といった評価課題となる恐れがあり、そうした取組を防ぐため内容横断的なパフォーマンス課題例を国が示すと、実践の硬直化・画一化を招く可能性もある)
 - 育成したい資質・能力の本質をシンプルに示すために「高次の資質・能力」においては「何を」、「どの程度」といった到達水準を示していない(個別の内容において示されている)ため、具体的な評価規準の設定が難しい場合が多いと考えられる
 - 個別の内容に基づく評価を行いつつ、高次の資質・能力の評価も行いつつとなると、同一の内容について二重の評価負担を強いることとなる
- また、WGでの議論においては、「高次の資質・能力」を評価の対象とすることを前提に検討すると、「高次の資質・能力」に紐づく個別の内容を漏れなく網羅した示し方とする必要が生じるが、そうすると、学習内容の本質を端的な形で定義することは難しいとの意見も出ている。
- さらに、企画特別部会での審議で参考とした、「Big ideas」「核心概念」といったメタ水準での資質・能力をカリキュラム基準に位置づけている諸外国でも、それらを直接の評価対象としては扱わず、目標や内容の本質を示し、指導を方向付ける枠組みとして整理されている例が多い。
- 一方で、教師が「高次の資質・能力」を活用して単元を構想し、「深い学び」の実現に資する学習過程や評価課題を丁寧にデザインしていくことは極めて重要である。
- 以上を総合的に勘案すると、当面は「高次の資質・能力」の育成状況自体について一律に直接的な評価を行うことは求めず、「高次の資質・能力」は各学校における単元構想を含む指導・評価の計画や実施の質を構造的に支える役割を果たすものとして整理してはどうか。
- こうした役割を果たせるよう、企画特別部会(第14回)で議論されたように、画一的・硬直的な実践を押しつけるものとならないよう留意しつつ、国として「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージを各教科等ごとに示していくことが重要ではないかと。
- また、各学校での単元の評価規準設定を支援するため示している各教科等の「内容のまとめりごとの評価規準(例)」は、今後デジタル学習指導要領で各教科等の内容や解説の記載と一体的に参照できる方向で検討されており、各学校が指導と評価の計画を作成する際に一層参照されやすくなる。
 こうした重要性を有する「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を示す際、「高次の資質・能力」を踏まえて可能な限り学びの深まりを意識した記載ぶりとなるよう検討することで、学習評価の改善にも資するのではないかと。
- なお、今後「高次の資質・能力」を意識した授業づくりが進む中、何らかの形でその一部であっても直接評価しようと判断する場合には、「高次の資質・能力」の直接的な育成・評価を目指すような、内容横断的なパフォーマンス評価などの実践の創出も期待される。そうした創意工夫を生かした多様な実践を促しつつ、文部科学省において積極的な研究開発・事例収集等を改訂後も継続的に進めるべきではないかと。

資質・能力の全体構造（素案）

	物質の構成		物質の性質		物質の化学変化	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	物質が粒子で構成されていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	空気や水、金属の性質には共通点や相違点があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	化学反応によって物質が変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	<ul style="list-style-type: none"> 物と重さ 空気と水の性質 金属、水、空気と温度 物の溶け方 燃焼の仕組み 理科と日常生活（仮称）【分野横断】 	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> 空気と水の性質 金属、水、空気と温度 物の溶け方 燃焼の仕組み 水溶液の性質 理科と日常生活（仮称）【分野横断】 	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> 燃焼の仕組み 水溶液の性質・ 理科と日常生活（仮称）【分野横断】 	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	物質を、原子・分子、イオンと関連付けて理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	物質の性質は、原子や分子の状態によって変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	化学反応においては、反応の前後で原子の数が保存されること、反応には熱が関係していることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
<ul style="list-style-type: none"> 水溶液 物質の成り立ち 水溶液とイオン 化学変化と電池 エネルギーと物質【分野横断】 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】 	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> 物質のすがた 状態変化 化学変化 水溶液とイオン 化学変化と電池 エネルギーと物質【分野横断】 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】 	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。	<ul style="list-style-type: none"> 化学変化 化学変化と物質の質量 水溶液とイオン 化学変化と電池 エネルギーと物質【分野横断】 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】 	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。	

資質・能力の全体構造（素案）

		総合的な発揮	領域	内容項目例 (第1学年相当)	内容項目例 (第2学年相当)	内容項目例 (第3学年相当)
中学校(1/2)	外国語	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考えを形成することができる。【理解する】 ・ 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して他者に伝えることができる。【表現する】 ・ 相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、気持ちなどを、相手に分かりやすいように表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を深めることができる。【伝え合う】 	聞くこと	話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について	
				条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば	
				できること	(ア) 必要な情報を聞き取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる	
			読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた	
				できること	(ア) 必要な情報を読み取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる	
			話すこと (やり取り)	話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について	
				条件	簡単な語句や文を用いて	
			話すこと (発表)	できること	(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる	
				できること	(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる	
			書くこと		(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる	

各学校の学習評価を支える構造について（現行）

学習指導要領・解説

各教科等の
目標

知識及び技能
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等
観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

学びに向かう力・人間性等
自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

※このほか、学年別に内容を示している教科等についてのみ、学年別目標も示している

指導要録通知

評価観点の
趣旨

知識・技能
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。

思考・判断・表現
自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。

主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

※このほか学年別目標に対応した評価観点の趣旨も示している

国研評価参考資料

内容のまとめりごとの
評価規準例

(4) 化学変化と原子・分子
知識・技能
化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。

思考・判断・表現
化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現している。

主体的に学習に取り組む態度
化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習指導要領・解説

各教科等の
内容

(4) 化学変化と物質の質量
知識及び技能
化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解すること。

思考力・判断力・表現力等
化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現すること。

各学校で決定

各単元の
指導と評価の計画

単元の目標

評価規準
評価規準例を参考にしつつ、学習指導要領の内容を踏まえて各学校で検討

学習活動

評価場面・方法
単元の目標をよりよく達成できるような学習活動や、評価規準に照らした評価場面・方法等を創意工夫して検討。

等

現在の学習評価プロセスの示し方の課題

- 各学校における学習評価のプロセスについては、学習指導要領及び解説で具体化されておらず、「指導要録通知」で観点別評価・評定等の記載に当たっての考え方を整理するとともに、国立教育政策研究所の「評価参考資料」によって各教科等ごとに具体的方法例を示している。
- それらに示されている学習評価の手順は、学習指導要領に示す目標、学年別目標、内容に示す文言をあますところなく考慮して各単元の評価に結びつける方向で作成されており、精緻に構成されている一方、以下のような課題も指摘されている。（補足イメージ③参照）
 - 考慮要素が多く複雑で、「○○を確認」「○○を作成」など、「総括的評価に向けた文言の作成」をベースに手順が組み立てられているため学習指導との関係をイメージしにくいものとなっている結果、日々の授業での実践が困難なものと感じられやすい
 - 評価計画に関わる各種の文言について「指導要領から転記」「指導要領の記載の語尾を変えて設定」するものが多く、作業の意義が見いだしづらく、教師の専門性を発揮すべきポイントが見えづらい
 - 観点別評価・評定に向けて行う「記録に残す評価」（総括的評価）のプロセスは具体的に示されているが、「学習や指導の改善に活かす評価」（形成的評価）の重要性やプロセスは十分に示されていない
 - 一人一台端末の普及や生成AIの発展等を踏まえた学習評価活動の進化を十分に織り込めていない
- **以上の課題も踏まえ、「多様な子供達の学びの深まりを支える取組は丁寧に改善・充実を図りつつ、そうでないものはスリムに」という考え方を徹底していく上では、学習評価のプロセスの示し方について、「文書作成のプロセス」から「育成したい資質・能力を目標として指導と評価を一体的に構想するプロセス」への転換を図りつつ、シンプルに整理していく必要があるのではないか。**

必ずしも意義が十分でない取組のスリム化

（評価規準の二重設定の解消）

- 学習指導要領の内容を踏まえて「内容のまとめりごとの評価規準」を各学校が作成し、その上で「単元の評価規準」を作成することとなっているが、**「内容のまとめりごとの評価規準」は実質的に学習指導要領の文末を変えて作成することを求めており、学校による作成の意義に乏しいのではないか。**
- **国が「内容のまとめりごとの評価規準例」を示した上で、各学校は各単元の評価規準について学習指導要領の内容を踏まえて作成**することとすれば、「目標に準拠した評価」の意義は果たしうると考えられ、**各学校による「内容のまとめりごとの評価規準」の作成は不要**としてはどうか。

（目標・評価規準の合理化）

- 現在、単元の目標と評価規準は別に作成することとしているが、評価参考資料に示した例では、**単元の評価規準は単元の目標の語尾を変えることで作成することが基本とされており**（例：目標「～を身につける」、評価規準：「～を身につけている」）、**分けて設定することの意義に乏しい**のではないか。
- 従来「学びに向かう力」については、その一部を「主体的に学習に取り組む態度」として抜き出して目標準拠評価を行うこととしていたため、目標と評価規準に違いがあることに一定の理由もあったと考えられる。一方、今般「学びに向かう力」は従前の目標準拠評価を行わないこととしたことにより、評価規準を設定するのは「知・技」と「思・判・表」のみとなり、この2つについては目標と評価の観点に違いはないため、従前の必要性は失われると考えられる。
- むしろ、「どのような資質・能力を育むか」と「どのような姿をもって資質・能力が育まれたことを判断するか」を一体化した方が指導と評価の一体化に資すると考えられ、**単元の目標はそのまま評価規準として用いることを前提としてはどうか。**（なお、複数の小単元を束ねて大きな単元を構想を行う場合に、評価規準を複数項目に分けて目標よりも細分化することは考えられる）

必ずしも意義が十分でない取組のスリム化（つづき）

（「計画の作成」から「構想」へ）

- 評価参考資料では、どのような場面でどのような指導を行い、どのように評価材料を収集するかといった手順を、「指導と評価の計画」として整理・作成することが求められている。しかし、特に小学校では、大多数の教師が複数教科を担当し、同一授業を繰り返し実施する機会が少なく、すべての単元について「指導と評価の計画」を作成することは現実的ではないとの声もあり、それがハードルとなって意図的・計画的な評価の実施から遠ざかってしまう課題もある。
- こうした状況を踏まえると、「指導と評価の計画」という文書の作成自体をプロセスとして示すのではなく、指導と評価に当たって教師がどのような点を意識すべきかという授業の「構想」のプロセスを意識して示すことが有効ではないか。これにより、必ずしも計画という文書形式を取らなくても、教師の指導・評価プロセスの意識化を促し、指導と評価の一体化を図ることが期待できるのではないか。

学びの深まりを支える取組の充実

（目標・評価課題・学習課題を一体的に構想するプロセスの可視化）

- 「意義の乏しい取組」のスリム化を図った上で、児童生徒の資質・能力の育成に資するプロセスをより丁寧に描いていく必要がある。今般、「深い学び」の一層の実装を図っていく上では、「深い学び」の実現に資し、「資質・能力」の育成を判断しうる評価課題とそれに向けた学習過程を一体的にデザインしていく教師の専門性を磨いていくことが一層重要となる。
- こうしたことを踏まえると、学習評価のプロセスにおいて、
 - ① 育成したい資質・能力の明確化
 - ② 資質・能力の発揮を見取る評価課題のデザイン
 - ③ 評価課題に向けて「深い学び」を実現する学習過程のデザインを一体的に構想する必要性を明らかにしてはどうか。
- このような基本的な考え方を、評価参考資料を待たずに学習指導要領の告示とともに国が示すことは、こうしたデザインを支える教科用図書の編集や民間教材の開発、各種教育研究団体の主体的な活動を促し、多くの教師にとって実現可能な環境づくりにも繋がるのではないか。

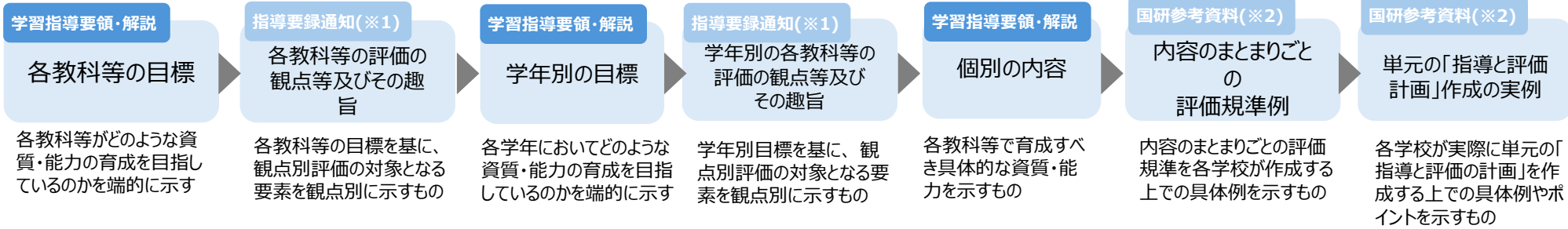
（形成的評価の充実）

- 上記のように、育成したい資質・能力との関連が明確となった学習過程のデザインを基礎として、多様な子供達が資質・能力を確かに育ていけるようにするためには、学習の途中で適切なアセスメントとフィードバックを行い、指導の調整と学習の調整を促す「形成的評価」の充実が不可欠であると考えられる。
- 「形成的評価」に関連して論点整理では、学校の評価活動の中で「総括的評価」がほとんどを占め、加えて評定を学期毎に示す学校が多いという実態の中、「形成的評価」の充実させる余地が少ないことから、「評定への総括は学年末のみに行うことが可能であることを明確に示しつつ、その場合は学期中は形成的評価を中心に行うことを促すなど、評価の役割分担を明確にすべき」旨を示している。
- この点、現在の学習指導要領解説では、「総括的な評価」と「形成的な評価」の適切な役割分担について明示的な記載がなく、学習途上での見取りとフィードバックの必要性を教師が認識しづらく、「総括的な評価」を見て児童生徒が次の学習に繋げていけば良いと誤認する恐れもある。
- そのため、改訂に際しては、学習指導要領解説において「総括的な評価」の頻度の必要に応じた見直しと「形成的評価」の計画的な位置づけについて明確化していくべきではないか。
- なお、「形成的評価」の充実は、これまでと質的に異なる新たな取組を求めるものではなく、子供一人一人の「目標と現在地の差分」を見取り、必要な学習の調整を促したり指導・助言を与えるという教師の専門性の「中核」とも言えるものであるが、必ずしもその重要性と実践例が広く認識されているとは言いがたい。
- そのため、学習指導要領解説においては基本的な考え方を示しつつ、評価参考資料で効果的な形成的評価の例などを示していく必要があるのではないか。

シンプルで資質・能力の育成に繋がる学習評価の新たなプロセス

- 以上を踏まえると、補足イメージ④に示す通り、以下のような内容をベースに学習評価のプロセスを描き直すことで、教師一人一人が学習評価を資質・能力の育成に活用するイメージを持ちやすくなり、指導と評価の一体化を更に進めることができるのではないかと。
 - ◆ 何を身につけさせたいかを明確にする（**目標と評価規準の設定**）
 - ◆ 身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える（**評価課題のデザイン**）
 - ◆ 評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる（**学習過程のデザイン**）
 - ◆ 身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える（**形成的評価の計画的な実施**）
 - ◆ 学習活動を展開する（**授業の実施**）
 - ◆ 学習成果を観点別評価・評定へ総括する（**総括的評価**）
- なお、以上のようなプロセスについて全て学習指導要領に記載することは、指導や評価のプロセスの画一化・硬直化を招く恐れもあるため、学習指導要領本体においては目標・指導・評価を一体的に構想する必要性や形成的評価の充実などの基本的な考え方を示すに留め、具体については解説や国立教育政策研究所の評価参考資料において記載することとしてはどうか。

国が定める基準・参考資料



確認



参照すべきものが多く、プロセスが複雑

プロセスが文書作業ベースで、指導との関連を見出しにくい

基に作成

指導要領から転記するものが多く、教師が専門性を発揮するポイントが見えづらい

ICTや生成AIの利用等が前提となっていない

総括的評価のプロセスは具体的だが形成的評価の記載が薄い

参照・活用



目標と「観点の趣旨」の対応関係を確認

「評価の観点及びその趣旨」が学習指導要領の各教科等の目標を踏まえて作成されていることを確認

内容のまとめごとの評価規準を作成

基本的に学習指導要領の内容の文末を「～している」「～することができる」などに換えることで作成

単元の目標を作成

学習指導要領に示す内容の記載等を踏まえて単元の目標を作成

単元の評価規準を作成

「内容のまとめごとの評価規準」や、学習指導要領に示す内容の記載を基に作成

「指導と評価の計画」を作成

設定した単元の目標や評価規準を踏まえて、具体的な指導や評価場面・評価方法を計画

学習指導、評価の総括

計画に基づき授業を行い、評価資料を基に評価を行う

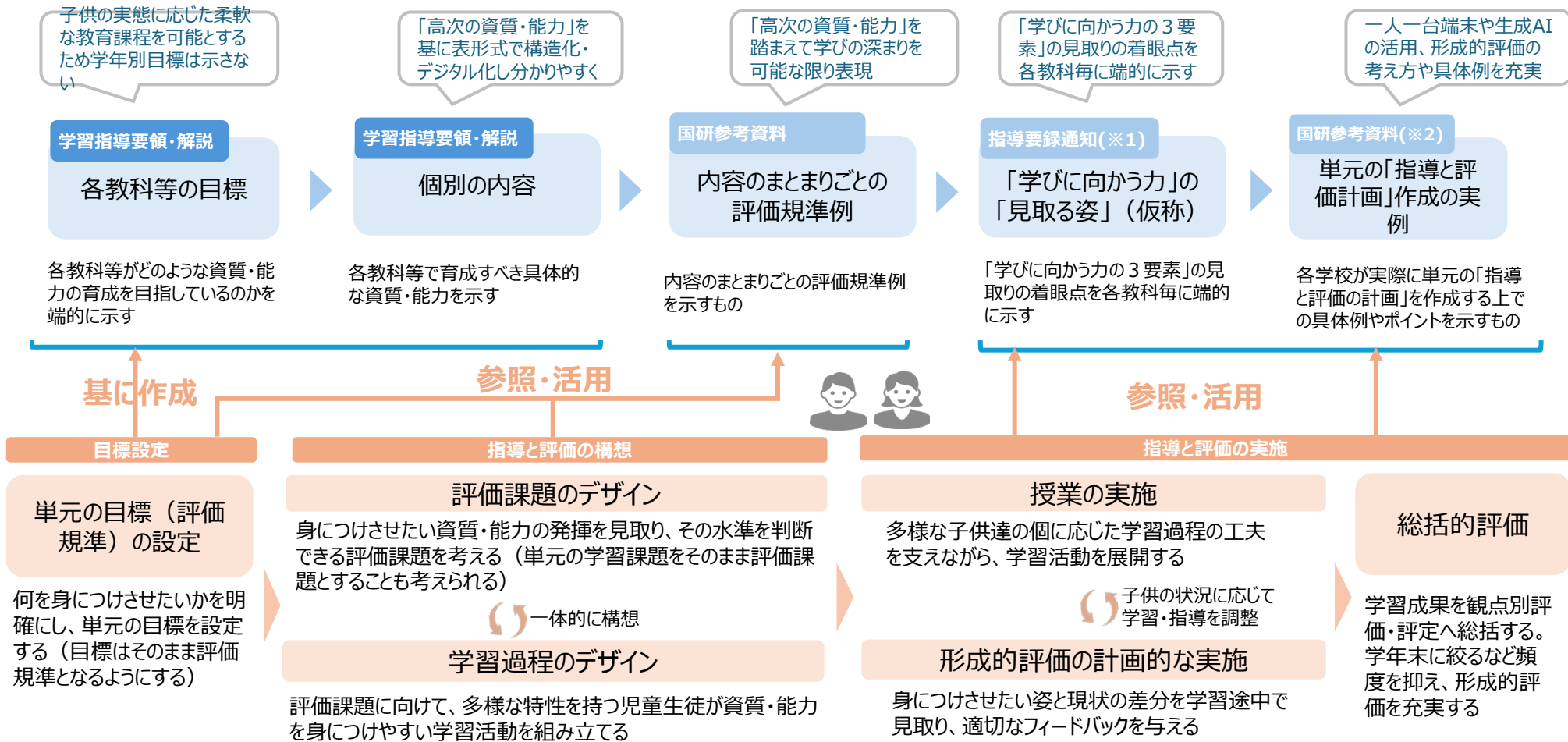
各学校で行う学習評価の手順例

※各教科等によって若干の違いあり

- (※1) 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）別紙4 別紙4 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）別紙5 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）
- (※2) 国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編・中学校編）
指導資料・事例集 | 教育課程研究センター | 国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research

資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの再整理（案）

国が定める基準・参考資料



各学校で行う学習評価の手順例

論点2 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方について

1 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方

<現状と課題>

- GIGAスクール構想により1人1台端末の整備が進められ、活用を進めていく段階にある。芸術系教科・科目におけるICT活用については、例えば、音楽において音楽創作アプリを活用した創作、図画工作・美術・工芸において撮影機能や描画機能を活用して作品に表すこと、書道においてデジタルポートフォリオとして活用し振り返りや学習成果を確認したりするなどの取組が進められている

(ICT活用の現状)

- ・演奏の音声や映像による記録、インターネットを介して気付いたことや意見の共有、音楽づくりや創作におけるアプリの活用など（音楽）
- ・撮影機能や描画機能を活用して作品に表す、作品や活動の様子を映像や写真に記録して振り返る、共有機能を生かして協働的な学びにつなげる、美術作品のウェブ上での鑑賞など（図画工作、美術、工芸）
- ・生徒自身の用筆・運筆、制作過程、作品や成果物を撮影・記録し、デジタルポートフォリオとして学習の振り返り等に活用したり、作品の画像、表現の工夫等の記録をグループやクラスで共有し、協働的な相互鑑賞や意見交換に活用したりするなど（書道）

- しかし、ICT活用に関し、例えば、以下のように資質・能力の育成のための効果的な活用に至っていないという課題がある
 - ・ICTの活用が、様々な感覚を働かせた深い学びにつなげることができていないこと（音楽）
 - ・見方や感じ方を深めたり、イメージを豊かにし作品の発想や構想に生かしたりすることにつなげることができていないこと
（図画工作、美術、工芸）
 - ・多様な書の美を味わったり書の表現性や表現効果等を生かして表現したりする過程で学びを深めることにつなげることができていないこと（書道）

1 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方（つづき）

< 改善の方向性（案） >

- **現状と課題を踏まえ、次期学習指導要領におけるICTの活用について、例えば以下の基本的な方向性をとることとしてはどうか**
- 芸術系教科・科目においては、**身体性を基本とする人間の本来的な能力としての技能が重要**であるということを前提とした上で、**ICTの適切な活用が知識・技能の習得や主体的に学習に取り組むことに加えて、思考を広げたり深めたりすることにもつながるようにしていくこと**
※ICTの適切な活用においては生成AIを含むこととするが、発達の段階を考慮しつつ学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するよう配慮することを前提とする
- 特に、次期学習指導要領においては、構造化を踏まえた「深い学び」を授業で具現化していくことを目指しているため、**ICTが用具としての利用にとどまらず、芸術系教科・科目の本質的意義である感性や創造性の涵養に資するようにしていくこと**
- 併せて、学校におけるICTの活用の推進により、子供たちが多様で大量の情報を扱ったり、時間や空間を問わず情報をやり取りしたり、思考の過程や表現の結果を共有したりする状況の一層の増加が考えられることから、**子供たちの発達の段階に応じて、知的財産の保護と活用に関する指導の更なる充実を図ること**

○芸術系教科・科目における改善の方向性（案）

（音楽）

- 児童生徒が様々な感覚を働かせて、音楽への理解を深めるだけでなく、思考・判断し表現することにつながるようにICTを効果的に活用できるようにしていくこと
- 発達の段階に応じて、音楽文化への理解につなげていくこと
- 著作者の創造性を尊重する意識をもつことができるようにすること。また、発達の段階に応じて、知的財産の保護と活用につながる態度を養ったり、知的財産権の取扱いを充実したりすること

（図画工作、美術、工芸）

- ICTの特性を生かした活用を図ることにより、豊かな創造性を育み、表現や鑑賞の活動を充実させ、資質・能力を効果的に育成できるようにすること。その際、教科・科目の特性を踏まえた文化への理解につなげていくこと
- 鑑賞の活動においては、多様な見方や感じ方に触れたり、それらを深めたりする学びを支えるため、ICTの効果的な活用を一層工夫していくこと
- 作品などに表れている創造性を尊重する意識をもつことができるようにすること。また、発達の段階に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などの取扱いを充実すること

（書道）

- ICTの特性を生かして活用することにより、書特有の視点をもって多様な書の美を捉え、自ら学びを深めることにつなげること
- 書の伝統と文化への理解を深められるよう、ICTを効果的に活用すること
- 著作物や著作者の創造性を尊重する意識をもつことができるようにすること。また、書に関する著作権や知的財産権の取扱いを充実すること

今後の小・中・高等学校におけるICT活用の方向性について（案）

音楽の例

< 改善の方向性（案） >

- ・児童生徒が様々な感覚を働かせて、音楽への理解を深めるだけでなく、思考・判断し表現することにつながるようにICTを効果的に活用できるようにしていくこと
- ・発達の段階に応じて、音楽文化への理解につなげていくこと

< 活用イメージ >

小学校音楽	中学校音楽	高等学校芸術（音楽）
<ul style="list-style-type: none"> ● リコーダーのタンギングを可視化して確認し、音色と演奏の仕方との関わりに気付く【器楽】 ● 鑑賞曲の速度を変化させて聴き比べ、速度による曲想の変化を確かめ、作曲家の表現の工夫を考える【鑑賞】 ● ICTで自分の担当するパートの音を消した音源を聴き、パートの役割を考える【器楽】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、技能の習得状況を確認したり課題を自覚したりする【歌唱、器楽】 ● 自分が課題としている技能について、範唱・範奏の音源や動画を視聴して解決の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、実際に音で確かめながら、音をつなげたり重ねたりして音楽をつくる【創作】 ● 音楽室と外部の人や団体、施設などをつなぎ、郷土の伝統音楽をオンラインで一緒に表現したり、鑑賞したりする【歌唱、器楽、鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「響く声」「柔らかい音」など、慣用的に用いる声や音を表す言語について、可視化したり数値化したりして、その性質を捉え、自分の声や楽器の音と比較しながら、技能習得の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、音色を様々に変えながら、楽器の組合せによる響きの違いを聴き比べ、音素材の特徴を生かした音楽をつくる【創作】 ● 配信された音源や動画などを視聴し、複数の国や地域の諸民族の音楽を聴き比べ、生活や社会における役割や、表現上の効果の共通性及び固有性について考えながら音楽を聴き深める【鑑賞】

※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

論点2 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方について

今後の小・中・高等学校におけるICT活用の方向性について（案）

図画工作・美術・工芸の例

< 改善の方向性（案） >

- ICTの特性を生かした活用を図ることにより、豊かな創造性を育み、表現や鑑賞の活動を充実させ、資質・能力を効果的に育成できるようにすること。その際、教科・科目の特性を踏まえた文化への理解につなげていくこと
- 鑑賞の活動においては、多様な見方や感じ方に触れたり、それらを深めたりする学びを支えるため、ICTの効果的な活用を一層工夫していくこと

< 活用イメージ >

小学校図画工作	中学校美術	高等学校芸術（美術）
<ul style="list-style-type: none">場所や空間をどのように変化させていくかを考えながら、動く映像をつくり、プロジェクターで投影するなどして、活動を工夫してつくる（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【表現】材料や用具について、画像や動画などからこれまでの経験を振り返ったり、使い方を確かめたりして、特徴を生かして使う（知識及び技能）【表現】作品を展示する場所を自分で選び、見る方向や作品と周りにあるものとの関係を考えて撮影し、友人と互いに見合ったり、話し合ったりして、自分の見方や感じ方を深める（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】活動の過程を撮影し、整理・蓄積したファイル等を基に自分の学びを振り返り、次の学習につなげようとする（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】	<ul style="list-style-type: none">ポスターのアイデアスケッチをタッチペンを使って画面上で作成し、途中段階を相互鑑賞し、その後、アイデアを修正することで、発想や構想を深める（思考力、判断力、表現力等）【表現】制作した動物や人などを動かして撮影し、アニメーションに表し、何度も試し活動することで、光や動勢などで捉えることを理解する（知識及び技能）【表現】美術館などで公開しているデジタルコンテンツを利用し、日本と諸外国の美術作品を拡大・縮小したり、並べて比較したりして鑑賞し、美術文化の相違点や共通点などを考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】活動の過程を振り返ったり、鑑賞で感じ取ったり考えたりしたことを共有するなどして、学習を主体的に調整する（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】	<ul style="list-style-type: none">映像や音、光、文字などの映像メディア表現の要素を複合的に用い、総合的な表現効果を考え、意図や動きに合わせ変形させたり特殊効果などを活用したりして表現方法を追求する（知識及び技能）【表現】日本及び諸外国の美術作品の複数の画像を比較して鑑賞し、表現の相違点や共通点などから美術文化について考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】
		高等学校芸術（工芸）
		<ul style="list-style-type: none">3Dソフトを用いて器のアイデアを考えたり、作成中の器を撮影し画面上で色を試し釉薬のかかった状態を確認したりするなどして発想や構想を深める（思考力、表現力、判断力等）【表現】作者や作品の背景にある社会や時代などを調べたり、美術館などで公開している工芸作品の拡大画像を見たりして、作品、素材や技法、作者についての心情や意図について考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】

今後の小・中・高等学校におけるICT活用の方向性について（案）

書道の例

< 改善の方向性（案） >

- ・ICTの特性を生かして活用することにより、書特有の視点をもって多様な書の美を捉え、自ら学びを深めることにつながる
- ・書の伝統と文化への理解を深められるよう、ICTを効果的に活用すること

< 活用イメージ >

小学校・中学校	高等学校芸術（書道）
小中学校において培われる ICT活用能力	<ul style="list-style-type: none">● 撮影・録画機能を活用し、長い期間での思考の変化や構想・工夫の過程を振り返ったり、適切なタイミング、適切な方法で効果的に活用したりすることにより、生徒自ら学びを深め、個別最適で多様な学びを実現することにつながる【表現、鑑賞】● 検索・参照できる機能を活用し、自身の学びを調整することにより、多様な技能を習得・習熟することや、豊かに構想・工夫し表現することにつながる【表現】● 美術館・博物館等のデジタルアーカイブや各種動画を活用し、書の表現性や表現効果等に関わる一回性や呼吸、空間意識といった視点から、書の美の多様性に触れ味わうとともに、書の伝統と文化への理解を深めることにつながる【鑑賞】

※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

論点2 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方について

(参考) 現行学習指導要領における記載 (コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用①)

音楽

小学校 音楽	第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1) 各学年の「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。 ウ 児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。
中学校 音楽	第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1) 各学年の「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。 エ 生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。
高等学校 芸術	第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1) 内容の「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導に当たっては、学校の実態に応じて学校図書館を活用すること。また、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、表現及び鑑賞の学習の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫すること。

図画工作・美術・工芸

小学校 図画工作	第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器を利用することについては、表現や鑑賞の活動で使う用具の一つとして扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
中学校 美術	第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (3) 各学年の「A 表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や資質・能力、発達の特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるように、次の事項に配慮すること。 イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。
高等学校 芸術	第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1) 内容の「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導に当たっては、学校の実態に応じて学校図書館を活用すること。また、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、表現及び鑑賞の学習の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫すること。

論点2 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方について

(参考) 現行学習指導要領における記載 (コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用②)

高等学校
芸術
(美術、工
芸)

第2款 各科目

第4 美術Ⅰ 2 内容

A 表現

(3) 映像メディア表現 映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想

(ア) 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。

(イ) 色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(ア) 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。

(イ) 表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞

(ウ) 映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。

第5 美術Ⅱ 2 内容

A 表現

(3) 映像メディア表現 映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想

(ア) 自然や自己、人と社会とのつながりなどを深く見つめ、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。

(イ) 映像表現の視覚的な要素などの効果的な生かし方について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(ア) 主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すこと。

第6 美術Ⅲ 2 内容

A 表現

(3) 映像メディア表現 映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想

(ア) 映像メディアの特性を生かして独創的な主題を生成し、主題に応じた表現の可能性や効果について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(ア) 主題に合った表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すこと。

論点2 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方について

(参考) 現行学習指導要領における記載 (知的財産の保護と活用に関する指導の充実①)

音楽

小学校 音楽	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。 オ 表現したり鑑賞したりする多くの曲について、それらを創作した著作者がいることに気付き、学習した曲や自分たちのつくった曲を大切にすることを養うようにするとともに、それらの著作者の創造性を尊重する意識をもてるようにすること。また、このことが、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。</p>
中学校 音楽	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。 カ 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する知的財産権について触れるようにすること。また、こうした態度の形成が、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。</p>
高等学校 芸術 (音楽)	<p>第1 音楽 I (Ⅱ・Ⅲにも同様の記載あり) 3 内容の取扱い (11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する知的財産権について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。</p>

図画工作、美術、工芸

小学校 図画工作	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (11) 創造することの価値に気付き、自分たちの作品や美術作品などに表れている創造性を大切にすることを養うようにすること。また、こうした態度を養うことが、美術文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。</p>
中学校 美術	<p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (7) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにすること。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。</p>
高等学校 芸術 (美術・工芸)	<p>第4 美術 I (Ⅱ・Ⅲにも同様の記載あり) 3 内容の取扱い (9) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにする。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮するものとする。 第7 工芸 I (Ⅱ・Ⅲにも同様の記載あり) 3 内容の取扱い (8) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、工芸に関する知的財産権などについて触れるようにする。また、こうした態度の形成が、工芸の伝統と文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮するものとする。</p>

論点 2 芸術系教科・科目におけるICT活用の在り方について

(参考) 現行学習指導要領における記載 (知的財産の保護と活用に関する指導の充実②)

高等学校

<p>芸術 (音楽Ⅰ、 美術Ⅰ、 工芸Ⅰ、 書道Ⅰ)</p> <p>※Ⅱ及びⅢを付 した科目におい てⅠを付した科 目の規定を準用</p>	<p>第1 音楽Ⅰ 3 内容の取扱い</p> <p>(11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する知的財産権について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。</p> <p>第4 美術Ⅰ 3 内容の取扱い</p> <p>(9) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにする。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮するものとする。</p> <p>第7 工芸Ⅰ 3 内容の取扱い</p> <p>(8) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、工芸に関する知的財産権などについて触れるようにする。また、こうした態度の形成が、工芸の伝統と文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮するものとする。</p> <p>第10 書道Ⅰ 3 内容の取扱い</p> <p>(11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、書に関する知的財産権について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、書の伝統と文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。</p>
---	--

論点3 資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討について

- ・ 構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化について
- ・ 教科書の在り方の更なる検討について

1 構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化について

<基本的な方向性>

- 教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）において、「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）」が示され、「今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化」に関わり各教科等WGにおいて検討を行うこととされた
- 具体的には、構造化・表形式化する学習指導要領について、単元・授業づくりのどういった場面でどのように活用することで授業改善につなげていくことができるのか、指導主事や経験が豊かな教師が、経験が浅い教師を指導する際のイメージを共有できるように、構造化・表形式化された学習指導要領の活用イメージとして、参考資料を示すことが提案された
- このことを踏まえ、芸術系教科・科目において、学習指導要領が、教師にとって多様で豊かな題材・単元、授業づくりを行う際の足掛かりとなるよう、例えば、次のような高次の資質・能力等を活かした題材・単元計画づくりの参考イメージを示していくことが考えられるのではないか

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ（小学校・音楽科）

補足イメージ



1年生から鍵盤ハーモニカを学習してきたけど、教科書では3年生でリコーダーをはじめて扱うことになっているな。そもそも、リコーダーを扱う学習で、どんな資質・能力を育てることを目指しているのだったかな？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。



デジタル学習指導要領（イメージ）

目標		他教科等や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。
見方・考え方		
高次の資質・能力		内容
総合的な発揮	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴などを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	思・判・表
統合的な理解	音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	知・技

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。



歌唱・器楽の高次の資質・能力を見ると、リコーダーを扱う授業で目指す学習の深まりがイメージしやすい、表形式で学習の系統性もわかって、鍵盤ハーモニカとリコーダーの学習のつながりが見えてくるな。学年末に「統合的な理解」や「総合的な発揮」に至った子供の姿が見られるように、年間を見通して学習内容を組み立てよう。



この題材では、リコーダーの音色のよさを感じ取りながら、鍵盤ハーモニカの学習を生かして息や舌の使い方を意識して演奏できるようにしたいな。子供の実態を踏まえながら、教科書に載っている教材や活動から、題材のねらいにつながりやすいものを選んで学習活動を構成しよう。



「総合的な発揮」には「音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして」とあるな。これは「音楽を形づくっている要素」を根拠にして表現を工夫するということか。この題材では、音楽を形づくっている要素の解説を参考にすると、「音色」をよりどころにするのがよさそうだ。



「音色」に関わる学習内容として、まず知・技の事項の学習が大切になりそうだから、第1・2時では、私の範奏を聴いて模奏したり、タブレットを活用して自分の音を可視化したりしながら、音色と息の使い方やタンギングとの関係について、より実感を伴って理解できるようにしよう。第3・4時では音色に関わる理解を生かして、教科書に載っている「シ」の音だけや「シ」と「ラ」を使った曲など、いくつかの曲で試しながら工夫して吹くことができるようにしよう。

あと、教科書にはリコーダーの参考曲の鑑賞も載っているけど、デジタル学習指導要領で歌唱・器楽と鑑賞の区分を併せて確認すると、鑑賞の学習として「味わって聴く」ところまで位置付けることは必要なさうだ。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てよう。子供の学習状況をしっかり把握して、着実に資質・能力を身に付けられるように働きかけができるよう準備しておこう。



知・技の事項が一体的に示されているから、自分でリコーダーを吹いて試す場面を設定し、知・技の学習状況を把握しよう。ペアで互いの演奏を聴き合ってチェックするのもよさそうだ。ただ、リコーダーの学習は、この後の題材でも続くから、知・技については、この題材では記録に残さず、形成的評価に絞って、課題が見られる子供にしっかり働きかけをしよう。



思・判・表は、曲をリコーダーで演奏するところで評価場面を設定しようと思っていたけど、評価規準例には「思いや意図をもって」とあるから、思いや意図を言葉で表す機会も必要だな。

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ（小学校・音楽科）

題材計画書のイメージ

1. 題材名：リコーダーとなかよくなるう

学習指導要領の記述

2. 教科の見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと。

学習指導要領の記述

3. 「歌唱・器楽」区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴などを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

学習指導要領の記述

4. 学びに向かう力、人間性等の目標、「見取る姿（仮称）」

目標	見取る姿（仮称）
楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽に進んで関わろうとしながら、自分にとっての音楽を学ぶ意義を見いだそうとしている 他者と関わる中で感じ方や考え方を広げ深めながら、学び方を工夫し、思考を巡らせて音楽表現を深めたり音楽を聴き深めたりしようとしている

何を身につけさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

5. 題材の目標、評価規準

知識・技能	思考・判断・表現
音色とその働きを諸感覚で・・・	音色とその働きとの関わり及び曲想と音楽の構造との・・・

※児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色

6. 指導と評価の計画

学習内容、評価場面と評価方法を計画する

時間	○学習内容 ・ 学習活動	知 技	思	・ 留意事項 【評価方法】
1	○音色とその働きを諸感覚で捉えながら、息や舌、指などを調節して演奏する技能を身に付ける ・リコーダーの扱い方を知る ・教師の範奏をよく聴いて模奏する	知 技	思	・導入ではリコーダーの参考曲を聴き、音色のよさを感じ取り、器楽の学習に意欲をもてるようにする
2	○リコーダーの音色の特徴と息の使い方やタンギングの仕方との関わりについて理解する ・自分の音をよく聴きながら様々な吹き方を試す ・友達と互いの音を聴き合う			・タブレットで自分の音を可視化しながら吹き試す ・ペアで吹き方当てゲームをし、楽しんで学習できるようにする *「知識・技能」の総括的評価は1学期の器楽の題材を通して行うこととし、本題材では行動観察、演奏聴取、発言により形成的評価のみ行う。
3	○曲想と音楽の構造との関わりについて考える ・リコーダーでも演奏しながら、旋律の動きやリズムに合った息の使い方やタンギングを工夫する			・旋律を歌ったり、旋律の動きやリズムに合わせて手を動かしたりするなどして、音楽の構造を捉えやすくしたり、息の使い方のイメージをもてるようにしたりする
4	○曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって演奏する ・友達と演奏を聴き合ったり、タブレットで自分の演奏を録音して聴いたりし、よりよい演奏になるよう繰り返し吹き試す ・よいと思った吹き方の工夫とその理由をワークシートに記入する			・自分や友達の音をよく聴き、そのよさに気付けるよう働きかける 【行動観察、演奏聴取、ワークシート】

7. 課題が見られる児童への働きかけの例

- ・タンギングの仕方と音色の関わりが実感できていない場合・・・
- ・考えた表現の工夫を、実際の演奏につなげられていない場合・・・

高次の資質・能力を踏まえて作成する



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ（中学校・美術科）



3年生になり、将来への希望や進路への不安など揺れ動く気持ちを抱えている生徒が多い。次の題材では、自己の内面を見つめることを大切にしていこう。そのためには、生徒が強く心の中に表したいことを思い描けるようにすることが大切だ。主題を深めて豊かに表現できるようにしたい。生徒の学びが深まるにはどうすればよいだろう。そもそも、この学習内容は本質的にどのような資質・能力を育てていけばよいだろうか。



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標		他教科等や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。
見方・考え方		
高次の資質・能力	内容	
総合的な発揮	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	思・判・表
統合的な理解	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	知・技

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。



「自分と美術」の「高次の資質・能力」を見ると、心の内面を描く授業で目指す学習の深まりがイメージできるな。造形の要素の働きやイメージなどを手掛かりに、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付け、豊かに発想や構想をしたことを、意図に応じて表現できるようにしたいな。



「知識や技能」、「思考力、判断力、表現力等」の内容事項を見ただけでは、それらの関係や学習の過程がイメージできなかつたけど、区分ごとの「統合的な理解」や「総合的な発揮」を手掛かりにすると、**生徒の学びのプロセスを思い描けそう**だ。具体的に考えてみよう。 . .



「総合的な発揮」には「自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ…」とあるな。外見には現れない本質や、自分の心を見つめて深く考えることを大切にしていきたい。昨年度は、「木の生命感」をテーマに表現したので、本題材では、空想の世界をテーマにしていこう。遠近や空間の視点をもてればさらに創造的に表現できそう。遠近に着目した美術作品を鑑賞し、**表現と関連させた指導**をしていこう。今回は版で表していく。ドライポイントなら線描の学習をする機会にもなる。これまでに**身に付けた技能を活用**できるよう、題材の最初に表現方法を確認したい。次に、心の中の世界などを基に**主題を生み出して**、創造的に構成を工夫できるようにしよう。線の強調などについても着目できるかな。主題を大切にしたい表現となるよう、ニードルの線の特徴を生かして表現方法を追求して欲しい。プレス機を使った刷り方についてもおさえ、何度か挑戦できるようにしよう。これで、題材での学習内容が決まった。本題材に充てる授業時数は合計で8時間だ。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てよう。生徒の学習状況をしっかり把握して、**着実に資質・能力を身に付けられるよう**に働きかけができるよう準備しておこう。



技能については、生徒が材料や用具を使ったり様々な表現方法を試したりする姿を観察して捉えていこう。また、前の題材で鉛筆を使って様々な線描について学んだことが、この題材で活用されているか、**まとめて本題材で捉える**ようにしよう。

思考・判断・表現は、発想や構想をし、工夫して表現している姿を生徒が作品に表している場面から把握していこう。

「高次の資質・能力」等を活かした題材計画づくりの参考イメージ（中学校・美術科）

題材計画書のイメージ

1. 題材名：心の中の世界を描く～ドライポイントの表現方法を生かして～

学習指導要領の記述

2. 教科の見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと。

3. 「自分と美術」区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる

学習指導要領の記述

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

学習指導要領の記述

4. 学びに向かう力、人間性等の目標、「見取る姿（仮称）」

目標	見取る姿（仮称）
創造することの喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の創造活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術や美術文化に関わり親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	<ul style="list-style-type: none"> 美術や美術文化に進んで関わり、自分の感じ方や考え方を問い直しながら、自分としての意味や価値をつくりだそうとしている 他者と感じ方や考え方を交流し、様々な視点や考え方に触れ、振り返りながら、自分の表現、見方や感じ方を広げ深めようとしている

何を身につけさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

5. 題材の目標、評価規準

知識・技能	思考・判断・表現
形や色彩などが感情にもたらす効果や、……	自己を見つめ夢や想像などの心の世界を基に主題を生み出し、……

6. 指導と評価の計画

学習内容、評価場面と評価方法を計画する

時間	○学習内容 ・ 学習活動	知 技	思	・ 留意事項 【評価方法】	
1	○表現方法などに着目して作品の情報を読み取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考える	↓	↓	※導入では美術作品を鑑賞し、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考え、発想や構想に繋げられるようにする	
2	○ドライポイントの制作の手順を知り、材料や用具の特徴を確かめる ・塩ビ版とニードルを使い試す ・プレス機での刷り方を知る			※ICT端末を使って、様々な表現の特徴について調べ、ニードルの使い方を試す	
3 4	○夢や想像などを基に主題を生み出し、画面全体の構成などについて考えながら構想を練る ・立体感や遠近感に着目して、線の効果を考える	↓	↓	※感じ取ったことや考えたことを基に深く自分を見つめ、主題を生み出し構想することができるよう働きかける	
5 6	○発想や構想をしたことを基に、意図に応じて工夫して表現する			※意図に応じて表現できるよう働きかける	
7	○ニードルの特徴を生かした表現方法を追求する			○	※ニードルの特徴を生かして使い、表現方法を追求している様子を観察して学習状況を把握し、記録に残す【活動の様子、対話・発言】
8	○さらに意図に応じて工夫して表現する ・全体と部分の関係に着目して、作品を仕上げる ・プレス機で刷る	↓	↓	○	※工夫して表している様子を観察し、発想や構想をしたことが表現できているか学習状況を把握し、記録に残す【活動の様子、ワークシート、作品】

7. 課題が見られる生徒への働きかけの例

- ・夢や想像などを基に主題を生み出せていない場合……
- ・意図に応じた表現の工夫を、制作につなげられていない場合……

高次の資質・能力を踏まえて作成する



このように、学習指導要領を基にして作成することができるだね。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（高等学校・芸術科「書道Ⅰ」）

補足イメージ



「楷書の学習」に続いて、「行書の学習」に入るぞ。行書は中学校国語科の書写でも学習しているけれど、国語と芸術では学習する目標や内容が違うのはもちろんだけど、芸術としての書道の学習が始まってまだ間もない生徒たちに学習内容についてどう伝えたいのだろう。そもそもこの学習内容は本質的にどういう**資質・能力**を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標		他教科等や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。
見方・考え方		
	高次の資質・能力	内容
総合的な発揮	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書の美とその価値について深く考え、自らの価値意識に基づいて、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	思・判・表
統合的な理解	作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について美感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	知・技

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。



なるほど、生徒が学習し個別の資質・能力を身に付け、さらに「**高次の資質・能力**」へと高めていけるように、学習内容を組み立てるのか。個々の学習を通してどのような資質・能力を身に付けようとしているのかがよく分かるし、目指すべき生徒の姿もイメージしやすいな。



指導事項が資質・能力で整理されていることは理解しているけれど、指導を通して資質・能力をバランスよく育成できているかはいつも不安だった。でも、「統合的な理解」や「総合的な発揮」の記述を見ると、資質・能力の関係や**目指すべき方向がよくわかりそう**だぞ。



古典の表現を、知識と技能の両側面から捉え、それらを関連付けながら古典の表現の特徴を把握し、表現を体現する臨書を通して、歴史的・文化的背景等を含む古典に関する知識の深化と、古典の表現を形作る基本的な技能の習得が図れるように指導しよう。評価にあたっては、思考・判断する活動の中での**知識**の習得・定着の状況や活用状況を見取ることや、構想・工夫を実践する活動の中での**技能**の習得の**過程**を見取ることが必要だな。

思考力、判断力、表現力等については、構想・工夫する中で思考・判断している内容と、それを言語化して表現したり、構想・工夫して創造的に表現したりして働かせられるように指導しよう。評価にあたっては、ワークシート等の学習記録と成果物としての作品から**思考・判断・表現の過程**を**丁寧に**見取ることができるよう準備が必要だ。もちろん生徒に資質・能力を働かせさせることを意識させる工夫も欠かせない。



それじゃあ、高次の資質・能力を、本単元における学習の深まりを意識した指導と評価にどう生かしたらよいだろう。



領域で目指す高次の資質・能力は、内容のまとまりを構成する複数の単元の**積み重ね**や、別の内容のまとまりでの学習との**関連**により総合的・統合的に働いている状態を目指すものだから、臨書から創作へ展開する本単元では、臨書により習得した知識や技能を使って何ができるかということを経験を通して理解しながら、表現することに取り組む創作の活動が、高次の資質・能力へとつながる活動と考えてよさそうだな。

活動を通して習得していく知識や技能を、思考・判断・表現する活動の中で活用し、資質・能力を往還させることにより、それぞれを高次の資質・能力へと高めていくためには、他者との相互鑑賞や意見交換を効果的に位置付けることが重要になるだろう。また、身に付けた資質・能力を発揮して創造的に表現する体験をして、自身や他者にとっての意味や価値を見いだすことにつながることも意識し、生徒と共有しよう。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（高等学校・芸術科「書道Ⅰ」）

単元計画書のイメージ

1. 単元名：行書の学習

2. 教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

感性を働かせ、文字や書を、書之美を構成する要素とその働きなどの視点で捉え、書の意味や価値を追求すること。

3. 高次の資質・能力

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を持って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書之美とその価値について深く考え、自らの価値意識に基づいて、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる

学習指導要領の記述

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

4. 学びに向かう力、人間性等の目標、「見取る姿（仮称）」

目標	見取る姿（仮称）
主体的・協働的に書道の幅広い創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	<ul style="list-style-type: none"> 書の伝統と文化に進んで関わろうとしながら、自分にとっての文字や書の意味や価値、それらを学ぶ意義を見いだそうとしている 他者と交流し、自分の感じ方や捉え方、考え方を広げ深めながら、書之美を追求し深めようとしている

5. 単元の目標・評価規準

何を身につけさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

知識・技能	思考・判断・表現
行書の古典の特徴・書風を構成する諸要素の働きや・・・	行書の古典の特徴・書風に基づく表現とその価値について、・・・

6. 指導と評価の計画

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。

時間	○学習内容 ・ 学習活動	知 技	思	備考
1	○既習の知識の習得・定着の確認 ○行書の古典の特徴・書風に基づく表現とその価値について考える。 ・行書の古典を鑑賞し意見交換して、ワークシートに記入	↓	↓	※既習の学習内容を振り返り、既得の知識や観点を確認。 ※直感的鑑賞に基づき意見交換して記入したワークシートと活動の様子を踏まえ形成的評価を行う。
2 3	○「古典1」の特徴・書風、歴史的・文化的な背景の理解 ・「古典1」の鑑賞 ○「古典1」の書風を表現するための技能の習得 ・「古典1」の臨書 ・構想・工夫し、相互鑑賞・意見交換し、ワークシートに記入	↓	↓	※古典1の表現を自ら体現するために、知識と技能を身に付け生かしながら構想・工夫し相互鑑賞・意見交換して記入したワークシートと活動の様子を踏まえ形成的評価を行う。
4 5	○「古典2」の特徴・書風、歴史的・文化的な背景の理解 ・「古典2」の鑑賞 ○「古典2」の書風を表現するための技能の習得 ・「古典2」の臨書 ・構想・工夫し、相互鑑賞・意見交換し、ワークシートに記入	↓	↓	※古典2の表現を自ら体現するために、知識と技能を身に付け生かしながら構想・工夫し相互鑑賞・意見交換して記入したワークシートと活動の様子を踏まえ形成的評価を行う。
6 7	○行書の古典の書風を生かして、自身の思いや意図に基づいて効果的、創造的に構想し、表現を工夫して表す。 ・行書の創作 ・構想・工夫し、相互鑑賞・意見交換し、ワークシートに記入	○	↓	※古典の臨書を通して身に付けた知識と技能を生かした創作について、単元が進むに従って創造的な活動へと段階的に展開できるよう支援する。 【評価：活動の様子、学習記録、成果物】
8	○古典の特徴・書風を構成する諸要素の働きや、歴史的・文化的な背景への理解を深める。 ○行書の古典の特徴や書風について、自身や他者にとって意味や価値を探究する ・全体で相互鑑賞、意見交換し、学習を振り返りワークシートに記入	○	○	※単元冒頭の鑑賞活動の記録も活用し、学習を通して広がった見方・考え方や価値意識を実感できるよう支援する。 【評価：観察、学習記録】

高次の資質・能力を踏まえて作成する。

7. 課題が見られる生徒への働きかけの例

- ・古典の特徴や書風を捉えて表現の工夫につなげられていない場合・・・
- ・自身の思いや意図に基づいて構想・工夫につなげられていない場合・・・



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

2 教科書の在り方の更なる検討について

<論点整理等における基本的な方向性>

- 論点整理において、今般の構造化の趣旨を踏まえ、**教科書の内容を「統合的な理解」と「総合的な発揮」をつかみ取りやすくなるものに精選**するとともに、その**分量について、調整授業時数制度の下で、調整後の時数で十分に指導可能となるよう検討**すべきとの方針が示されている
- このことを踏まえ、教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）において、「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）」が示され、「趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討」に関わり各教科等WGにおいて検討を行うこととされた
- 具体的には、「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい単元・授業づくりに資する観点から、
・**現在の教科書のどういった内容を精選対象とすることが考えられるのか**
・**どういった構成上の工夫が考えられるのか**
に**関してのアイデア出し**を行い、**教科書会社における教科用図書の編纂の参考となるよう検討**を行うこととされた

<芸術系教科・科目における教科書の精選等の方向性（案）>

- **精選の観点から、掲載されている教材等※を全て指導しなければならないということではなく、その中から教師が適切に選択したり参考にした**りして指導することができることを、**教師が読み取りやすくなるような構成が期待されるのではない**か
- **次期学習指導要領における「深い学び」を授業で具現化していく観点から、例えば、以下のような構成上の充実を図ることができるようにしてはどうか**

※ 例えば、音楽を形づくっている要素など〔共通事項〕に係る提示、楽器、材料や用具などの使い方、表現や鑑賞の教材（歌唱共通教材以外の教材を含む）など

- 教師が「**高次の資質・能力**」を踏まえ、**創意工夫を生かして柔軟に授業づくりができるようにする構成上の工夫**（小学校の例：一つの教材について歌唱又は器楽、さらには合唱奏で扱うなど、様々な学習活動ができるようにする）（音楽）
- **鑑賞の学びの充実**に資するよう、**造形的な特徴、造形の要素、書を構成する要素などを手掛かりに、技能を活用して児童生徒が能動的に鑑賞できる**ような構成上の工夫（図画工作、美術、工芸、書道）
- 小・中学校における学びを踏まえ、**高等学校における芸術そのものを学ぶ機会**に資するよう、例えば、**見返しなど教科書の冒頭のページなどに、文化や芸術の広がりや多様性、芸術が生活や社会に果たしている役割、芸術を学ぶ意義や価値などについて考えることができる**ような構成上の工夫（高等学校芸術科のIを付した科目）



資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）

令和8年2月2日
教育課程企画特別部会
資料 2 - 2
(会議後修正)

- 各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況を一覧化し、本部会の論点整理で示した資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえ検討したところ、以下1～7については共通して精査を要するのではないかと
- ✓ これら以外に、各WGに対して個別に指摘すべき事項や、各WG共通で検討を要する事項はないか
- ✓ 本日の議論を踏まえて、引き続き総則・評価特別部会や各WGにおいて資質・能力の構造化の具体についてさらに検討を深めることとしてはどうか

1. 資質・能力の深まりの可視化

- 今般の構造化を通じ、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的に持つことができるようにすることが重要。**（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」B関連）**
- こうした視点で見た際に、抽出された「高次の資質・能力」のうち特に「統合的な理解」については、依然として個別の知識及び技能が不足なく身に付いた状態を「要約」して示すに留まっているものも見られる。
- 個々の知識・技能が単に網羅されているかではなく、「指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージできるような確に示しているか」といった観点から、各WGで記載を見直し、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、「統合的な理解」となった児童・生徒の姿を描き出せるよう更に検討すべきではないか。

2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- 「深い学び」を実現する具体的なイメージを持つことができるようにするためには、学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであることも重要。**（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」D関連）**
- こうした視点で見た際に、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見される。
- 各教科等の本質や育みたい資質・能力を十分に表現可能な範囲において、解説との役割分担も含め（教科等の本質的な意義に焦点化できているかという視点から精査）、一層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか。

3. 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査

- 総則・評価特別部会においては、「高次の資質・能力」の全体を暫定的に整理した後、それらを基に各教科等WGにおいて個別の資質・能力の検討を行う際の方向性として以下を示した。**（【資料1】P7）**

「各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるか」といった視点からも検討」

- 今後、上記の方向性に加え、下記の留意点も踏まえつつ、各教科等WGで個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を進めてはどうか
 - ✓ 暫定的に現行学習指導要領の内容に基づき、高次の資質能力を整理してきたWGもあることから、今後の検討にあたっては、現行の指導内容が全て等しく重要であると安易に判断しないように留意する必要
 - ✓ 個別の資質・能力を検討していく中で「高次の資質・能力」の在り方についても往還しながら更に改善を図っていく必要

その他「高次の資質・能力」での構造化に当たり留意すべきポイントについて

（「高次の資質・能力」について）

- 単学年ごとに「高次の資質・能力」を示している場合などで、「高次の資質・能力」が個別の内容事項と近接してしまい資質・能力の深まりが示せていないものもあり、そういった場合は複数の「高次の資質・能力」をまとめて水準を上げることも考えられるのではないか
- 特に「総合的な発揮」については、学びの成果として達成して欲しい姿として重要であると同時に、学習過程において、状況に応じて思考力・判断力・表現力を選択したり組み合わせたりしながら、繰り返し発揮される中で育成されていく側面を有するという視点も踏まえた示し方とすべき（一方、学習過程自体を記述するものではないことに留意が必要）
- 「高次の資質・能力」については、深い学びを実現する授業のイメージを教師が持てるようにする視点に加えて、児童生徒の多様性を包摂する授業づくりを進めるために活用するという視点も重要。このため、児童生徒の多様性を踏まえた多様なアプローチが許容されるものとなっている必要があり、そのためにも、特定の活動を想起させる狭い記載ではなく、できる限りスリムで骨太な記載とすべき

（学校段階の特性を踏まえた共通性の確保について）

- 多くの教科を指導する小学校の教員から見ると、教科間の記載にばらつきが大きすぎると理解が進まない恐れ。各教科等の特性を踏まえつつも、各学校段階では一定の共通性を持って見られるよう抽象度の高さを含め一定の平準化が必要。他の学校段階や他教科等の表現も参考にしつつ、当該学校段階の発達段階を踏まえた「深い学び」の姿を具体的にイメージできるようになるかという共通の視点をもって検討が必要

（資質・能力の3つの柱の性質を踏まえた整理について）

- 並列パターン、並行パターンといった形式上の違いはあれど、資質・能力の整理は本質的なところで共通している必要。特に「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要。「学びに向かう力・人間性等」は「思考力・判断力・表現力等」の中で見取る方向で検討していることも踏まえ、異なる整理をしている教科においては、引き続き検討が必要

4. 今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化

- 「高次の資質・能力」を基にした今般の構造化・表形式化は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」について学びの深まりを可視化するとともに、それらを一体的に育成する学習の在り方を示し、教師一人一人が「深い学び」を具現化しやすくすることを目指すもの。
- 一方で、整理・構造化された資質・能力について理解を深めることと、それらを活用して実際の単元・授業づくりに活かすこととの間には依然としてギャップがあるものと考えられる。「資質・能力」の深まりを捉えた後、それを実現する単元・授業をどのように構想し、実践に繋げていけばよいかを考えることは、特に経験の浅い教師にとっては、難しい場合もある。
- そのため、構造化・表形式化する学習指導要領について、単元・授業づくりのどのような場面でどのように活用することで授業改善に繋げていくことができるのか、各教科等ごとに参考イメージを示すことにより、指導主事や経験が豊かな教師が、経験の浅い教師を指導する際のイメージを共有できるようにすることを検討してはどうか。 (補足イメージ参照)
- ※ このことに関わって、前回改訂時の中教審答申においては各教科等固有の「深い学び」を実現する学習過程を精緻に示す試みが行われたが、多くの要素が盛り込まれ、教科等によっては複雑で実現が難しいものとなったとの指摘もある。また今般、個別最適な学びの実現の観点も踏まえ、「個に応じた学習過程」の充実を目指すこととしている。これらを踏まえると、今回は単一の学習過程を整理するのではなく、子供一人一人が深い学びを実現するための専門職としての教師の多様な単元・授業づくりを支えるという視点から、上記のように、構造化・表形式化された学習指導要領の活用イメージとして、参考資料を示すことが適当ではないか。
- ※ その際、このイメージはあくまでも参考の一つとして示し、現場の実践を過度に縛るものにならないよう留意が必要。実践者が子供の実態を踏まえて、多様で豊かな単元・授業づくりを行う際の足掛かりの一つと位置づけてはどうか。

5. 用語の一層の整理・検討 (高次の資質・能力)

- 企画特別部会では、今回の学習指導要領の一層の構造化の核となるものとして、「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力・判断力・表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んで整理していたところ。
- これらの用語について、総則・評価特別部会では、新たな用語が増えることを避け、一人一人の教師が現行の学習指導要領の延長線上に今回の構造化を理解することができるようにする観点から、資質・能力の深まりを示すものを「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」、それらをまとめて「高次の資質・能力」と呼ぶことと整理した。 (【資料1】P3参照)
- 「統合的な理解」「総合的な発揮」の呼称については、今回の構造化の趣旨の理解を進める上で効果的に働いている一方、「高次の資質・能力」という語については、各教科等WGでは、学校現場には単に「レベルの高い高度な資質・能力」として受け取られる等の誤解を招くのではないかといった懸念もあったところ。
- こうしたことも踏まえ、「高次の資質・能力」という用語については、今回の構造化を検討・議論する上の「足場」としては重要であり引き続き使用することしつつも、実際に学習指導要領を告示する段階に向けて、更に適切な語があればそれを用いることとするか、または告示文の中ではあえて用いない (「統合的な理解」「総合的な発揮」のみで説明) こととしてはどうか。

6. 趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討

- 企画特別部会の論点整理においては、今般の構造化の趣旨を踏まえて教科書の内容は「統合的な理解」「総合的な発揮」をつかみ取りやすくなるものに精選していくとともに、その分量の在り方に関しては、調整授業時数制度の下で、調整後の時数で十分に指導可能なものとなるよう検討すべきとの方針を示している。
- 一方で、教科書会社からは、そうした「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい教科書は具体的にどのようなものかイメージが湧きにくいという声もあり、総則・評価特別部会においては、各教科等WGにおいて「高次の資質・能力をつかみやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う」方針が示されているところ。（【資料1】P7）
- これらの方針を踏まえつつ、各教科等WGにおいては、
 - 3. に示す個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を着実に進めていくとともに、
 - 「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい単元・授業づくりに資する観点から、現在の教科書のどういった内容を精選対象とすることが考えられるか、またどういった構成上の工夫が考えられるかといった点についてのアイデア出しを行い、教科書会社における教科用図書の編纂の参考となるよう検討を進めることとしてはどうか。
- 中央教育審議会におけるこれらの検討状況も踏まえつつ、調整授業時数制度を活用して標準を下回って時数を設定した後の授業時数でも、教科用図書の内容を適切に取り扱った指導が可能となるような教科書編纂を促すための仕組み作りなどについて、検定調査審議会において具体的に検討することとしてはどうか。

7. 構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

- これまで、学習指導要領の構造化・表形式化と、デジタル化、調整授業時数制度をはじめとする柔軟な教育課程編成を促す仕組み、個に応じた学習過程の充実については、それぞれ一定の検討時間を要するものであったため、トピックを分けて具体化の議論を進めて来た。
 - もとより、これらの方策はいずれも密接に関連している（※）ものであることから、トピックごとに一定の具体化が進んできた現段階において、相互の関係を改めてしっかりと可視化し、学校現場が一体的に理解できるよう示していくことが重要ではないか。
- （※）相互の密接な関連の例
- ・「高次の資質・能力」に基づく構造化・表形式化は、各教科等の「深い学び」を実現しやすくするために重要であるだけでなく、各学校が子供の実態に応じた柔軟な教育課程を編成したり、個に応じた多様な学習過程を充実する中にあっても、外してはならない教育課程の「軸」を明確化する役割も有している。
 - ・「高次の資質・能力」で示した教育課程の「軸」をおさえつつ、子供の実態に合わせた柔軟な教育課程を編成・実施していく上では、系統性を確保しながら多様な実践アイデアを練る必要がある。このため、学習指導要領に示された内容を様々な角度から比較・参照して理解することや、データで出力して進捗管理に活用することを可能とするなど、学習指導要領のデジタル化による利便性の向上・活用幅の拡大が効果的と考えられる。
 - ・多様な子供一人一人に深い学びを実現していくためには、調整授業時数制度を用いて学校レベルでの教育課程を柔軟化することも重要であるが、その先に個々の児童生徒のレベルでの学習過程の質が個に応じたものとして改善していくことが求められる。そのためには、学習方略の指導等を含め、個に応じた学習過程の充実を支える方策の充実が重要となる。
- そのため、今後総則・評価特別部会において、これらの方策がどのように相互に関連しているかを一層明らかにしつつ、その結果としてどのような単元・授業づくりを目指そうとしているのかを取りまとめにおいて可能な限り示していくことが考えられるのではないか。

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・理科） 補足イメージ

令和8年2月2日教育課程企画特別部会 資料2-2（会議後修正）

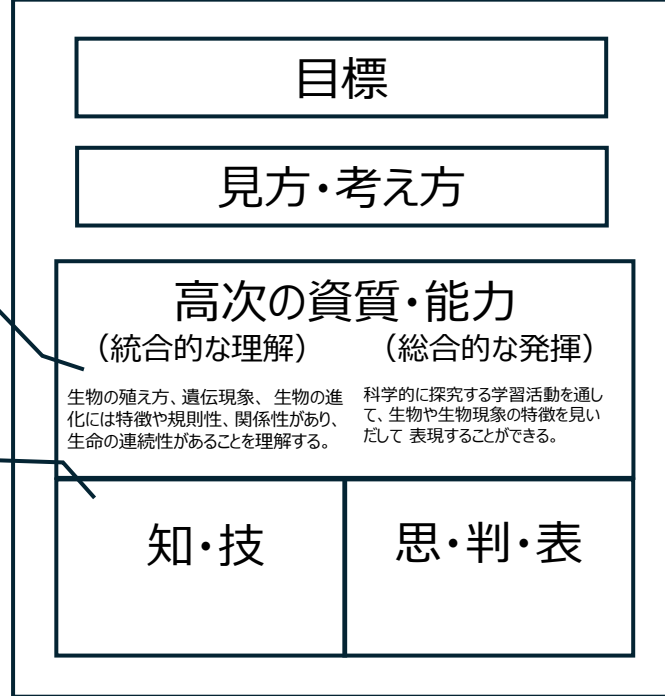


次は3年生の生物分野「遺伝の規則性と遺伝子」か。教科書をなぞるだけでは、子供達も学習内容を深く理解できないだろうし、資質・能力も身につけにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどういった資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）



学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。科学的な探究の活動を通じて、遺伝の規則性や生命の連続性を理解できるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き2ページを毎コマ積み重ねるだけでは「科学的な探究」の活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけない。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか。...



「遺伝の仕組み」と「遺伝のモデル実験」の学習内容に重点を置き、それぞれ2時間を充てよう。規則性・生命の連続性に関する学びの本質がつかみやすいように、単元の最初と最後に、ガイダンスと振り返り時間を設定しよう。

科学的に探究する時間を確保したいし、「遺伝の仕組み」では、科学史としての「メンデルの交配実験」の扱いは軽くしよう。

特に、遺伝の仕組みの本質的な理解を促すために、4、5時に、「遺伝のモデル実験」を設定しよう。

第4時の実験では、「各自の実験結果の考察」を重点として、
第5時の実験では、「実験値と理論値を比較して考える新たな実験計画の立案」を重点として、実施しよう。

ここまでで「遺伝の仕組み」が理解できるので、最後に、遺伝を担うものを理解するために、「遺伝子の本体」について、1時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。
これらから、本単元に充てる授業時数は合計で7時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身につけさせたい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



知・技も、規則性・生命の連続性に関する本質的な理解をペーパーテストで見取るのは難しそうだな。今回は、実験記録の記述分析で見取ってみようか。

特に思・判・表は、科学的な探究の過程で身につけた資質・能力を総合的に発揮して表現するようなパフォーマンス課題を設けたらよさそう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・理科）

令和8年2月2日教育課程企画特別部会資料 2 - 2
(会議後修正)

単元計画書のイメージ

1. 単元名：遺伝の規則性と遺伝子

学習指導要領の記述を転記する。

2. 教科の見方・考え方

自然の事物・現象・・・を、●●●の視点から捉え、◆◆◆すること。

3. 分野・区分の高次の資質・能力

学習指導要領の記述を転記する。

統合的な理解	総合的な発揮
生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、・・・	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして・・・

学習指導要領の記述や生徒の実態を踏まえて設定する。
【検討①】

4. 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性
生命の連続性に関する事物・現象に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子を理解するとともに、・・・	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解し、・・・	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を・・・

単元の目標を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて設定する。
【検討②】

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、・・・	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、・・・	※「○」のつけ方など、具体的な評価の在り方については今後検討予定

6. 指導と評価の計画

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。【検討③】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●単元のガイダンス ●既習事項や既存の知識のイメージマップでの整理	態		※ガイダンスでは、 ・学習の流れと学習方法 ・前後の学習内容とのつながりを指導する。 ※イメージマップでの整理は7時間目に自己の変容に気付かせるために行う。
2 3	●遺伝の仕組み ・メンデルの交配実験 ・有性生殖と顕性の法則 ・減数分裂と分離の法則	知		※遺伝の法則については、生命現象と関連付けて理解させる。
4 5	●遺伝のモデル実験 ・実験操作の意味 ・実験結果の考察	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、 ・操作の意味を理解しているか ・実験結果と理論値を比較して結果の妥当性や改善方法を考察しているかを記述分析で評価する。
6	●遺伝子の本体 ・染色体、DNA、遺伝子の関係	知		
7	●学習の振り返り ・学習内容のイメージマップでの再整理 ●パフォーマンス課題	態 知 思	○ ○	※観点別学習評価は ・学習前後の自己の変容を基に、次単元での学習にどのように生かそうとしているかを記述分析で評価する。 ※高次の資質・能力を踏まえたパフォーマンス課題で、資質・能力の深まりを確認する。

7. パフォーマンス課題

高次の資質・能力を踏まえて作成する。
【検討④】

「2色のトウモロコシの種子の色の遺伝」について、その仕組みを説明しなさい。



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

芸術系教科・科目の目標、見方・考え方、高次の資質・能力

音楽（小学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽のよさなどを味わって聴いたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴などを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
	音楽づくり	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、設定した条件に基づいて発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 設定した条件に基づいて、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること 設定した条件に基づいて、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし音楽を聴き深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

音楽（小学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など 身体を調節したり、声（音）を合わせたりして歌う（演奏する）技能を身に付けるとともに、声（楽器）の音色や全体の響きの特徴と歌い方（演奏の仕方）との関わりについて理解すること
	音楽づくり	音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、即興的に音を出して試したり音楽の仕組みを用いたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など 音を選択したり、音楽の仕組みなどを用いて組み合わせたりして表現する技能を身に付けるとともに、いろいろな音、音やフレーズをつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴について理解すること
鑑賞		音楽の特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、曲や演奏のよさなどを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト:第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする

内容

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などとの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
	器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
	創作	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと

黄色ハイライト: 第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて歌いながら理解すること 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
	器楽	曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて演奏しながら理解すること 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴及び反復、変化、対照などによって生まれる構成上の特徴について、音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

黄色ハイライト:第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等 思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（音楽Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等 自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などとの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
	器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
	創作	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした統一感のある音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを自ら味わって聴くこと

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト：第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽）②）

音楽（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（音楽Ⅰ）

知識及び技能

イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うための声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
	器楽	曲の特徴や表現上の効果を生かして演奏するための楽器の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 様々な表現形態による器楽表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	音や音同士の関係の特徴などを生かした音の選択や組合せを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音楽をつくることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 音型の特徴や構成上の特徴、音楽の形式の特徴などについて、反復、変化、対照などの手法を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさなどを見いだすことができることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解すること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト：第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

図画工作

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と材料や場所 (仮)	自分と材料や場所との関わりから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、造形的な活動をつくる過程での気づきを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
	自分と表したいこと (仮)	自分と表そうとすることとの関わりから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気づきを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
鑑賞		形や色などを基に自分のイメージをもちながら、作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりして、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考えることができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること

黄色ハイライト: 第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

※区分名については、引き続き検討。

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

図画工作

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、**表現方法に応じて材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする**

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と材料や場所（仮）	自分と材料や場所との関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴について捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できていることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること 造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	自分と表したいこと（仮）	自分と表そうとすることとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴について捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できていることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解すること 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
鑑賞		自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できていることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること 鑑賞の方法を知り、自分たちの作品や、親しみのある美術作品などの表現の特徴などを捉えながら見ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

美術（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って**創造的に**表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との 関わりから 対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出すこと 構想を練り、工夫して表現すること
	身近な生活や社会と美術（仮）	身近な生活や社会と美術との 関わりから 対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> 意図や、伝える、使うなどの目的や条件などを基に主題を生み出すこと 調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との 関わりから 美術作品などを見つめ、見方や感じ方を深め、自分の中の美術がもつ意味や価値について考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
	身近な生活や社会と美術（仮）	身近な生活や社会と美術との 関わりから 美術作品などを見つめ、見方や感じ方を深め、社会における美術がもつ意味や価値について考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 目的や条件、機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（中学校美術②）

美術（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術 (仮)	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	[共通事項] ・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること ・ 美術の働きや美術文化について理解すること ・ 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること ・ 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
	身近な生活や社会と美術 (仮)	身近な生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	[共通事項] ・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること ・ 美術の働きや美術文化について理解すること ・ 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること ・ 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
鑑賞	自分と美術 (仮)	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	[共通事項] ・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること ・ 美術の働きや美術文化について理解すること ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること
	身近な生活や社会と美術 (仮)	身近な生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	[共通事項] ・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること ・ 美術の働きや美術文化について理解すること ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト: 第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

美術（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、 表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成すること 構想を練り、工夫して表現すること
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、目的や条件、意図などを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（デザイン、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 目的や条件、機能などを考え、主題を生成すること 構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、自分の中の美術がもつ意味や価値について考えることができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、社会における美術がもつ意味や価値について考えることができる	（デザイン、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考え、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

美術（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもてるようにすること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト: 第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

工芸（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、
表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（身近な生活の視点に立った発想や構想） <ul style="list-style-type: none"> 自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をすること 制作の構想を練り、工夫して表現すること
	社会と工芸	社会と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（社会的な視点に立った発想や構想） <ul style="list-style-type: none"> 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること 制作の構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、生活における工芸がもつ意味や価値について考えることができる	（身近な生活の視点に立って考える鑑賞） <ul style="list-style-type: none"> 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
	社会と工芸	社会と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、社会における工芸がもつ意味や価値について考えることができる	（社会的な視点に立って考える鑑賞） <ul style="list-style-type: none"> 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること

黄色ハイライト：第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

工芸（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点、**工芸の働き**や**工芸の伝統と文化**について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との 関わりから 、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、 状況 や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見直しをもつこと
	社会と工芸	社会と工芸との 関わりから 、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、 状況 や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見直しをもつこと
鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との 関わりから 、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、 工芸作品 などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること
	社会と工芸	社会と工芸との 関わりから 、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、 工芸作品 などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

書道（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書的美とその価値について深く考え、自らの価値意識に基づいて、創造的、个性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
鑑賞	書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりを通して、作品や書的美と、その伝統と文化の意味や価値について深く考え、書のよさや美しさを味わうことができる	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること 作品や書的美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書的美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

書道（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

知識及び技能

書の特性、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> • 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること • 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること • 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること • 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
鑑賞	書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取る技能を身に付けることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> • 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること • 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること • 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること • 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

黄色ハイライト:第7回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討